

2023 年度
「海外文化実習」報告書
横浜市立大学
国際教養学部

猪瀬文彌 大河原優希 一優真 久野華子 佐々木ひいろ 武智雄大

千明瑚海 中村実優 藤巻結衣 宮川奈那美 山田希実



まえがき

本報告書は、2023年度前期科目「海外文化実習」における、授業内での発表及び海外での実習活動の内容をまとめたアクティブ・ラーニングの活動記録である。前期の週1回の授業では、事前学習として、イギリスの文化、歴史、及び各自のフィールドワークにおける調査トピックに関する発表とディスカッションを行った。そして8月にイギリスのヨーク大学で2週間のサマーコースを受講し、イギリス文化とリサーチ方法を学んだ。その後、ロンドンとオックスフォードに1週間滞在し、各自のテーマに基づいたフィールドワークを行った。後期になってからは、事後学習として調査トピックに関する追跡調査を文献やインターネットを通じて行い、各自の調査研究に関する発表を行ったり、報告書の編纂を行ったりした。そして1年を通じたアクティブ・ラーニングの総括として、春休み中に本報告書を執筆、編集した。

ヨーク、ロンドン、オックスフォードではいずれも大学寮に滞在をしたため、現地学生と同様の生活を体験することができたうえに、現地学生やスタッフ、留学生との交流を行うことができ、異文化交流を実体験することができた。前期授業の15週間、ヨーク大学での2週間、ロンドン・オックスフォードでの1週間、そして帰国後の学習が全て連関し、実りある活動となった。海外での実習により学習面だけでなく人間的な成長も見られた。

加藤 千博

<旅程表>

月 日	行 程	訪問地	目的	宿泊先
8月5日	成田(17:15)発→香港経由	キャセイパシフィック航空		
6	ロンドン・ヒースロー(6:20)着 →ヨーク(電車で移動)	ヨーク大学	移動、チェックイン	ヨーク大学: Derwent College
7~11	ヨーク大学	大学	サマーコース受講(現地教員の講義に参加)	ヨーク大学: Derwent College
12	ヨーク市内	市街	市内FW(現地住民にインタビュー)	ヨーク大学: Derwent College
13	ヨーク市内	市街	市内FW(現地住民にインタビュー)	ヨーク大学: Derwent College
14~18	ヨーク大学	大学	サマーコース受講(現地教員の講義に参加)	ヨーク大学: Derwent College
19	ヨーク→ロンドン (電車で移動)	ロンドン大学	移動、チェックイン、大学訪問	ロンドン大学: LSE Rosebery Hall
20	ロンドン市内	グローブ座、モリス博物館、クイアブリテン	現地学芸員へのヒアリング、インタビュー調査	ロンドン大学: LSE Rosebery Hall
21	ロンドン市内	ハリ・ポッターミュージアム、大英図書館	現地学芸員へのヒアリング、インタビュー調査	ロンドン大学: LSE Rosebery Hall
22	ロンドン市内	大英博物館、V&A博物館	現地学芸員へのヒアリング、インタビュー調査	ロンドン大学: LSE Rosebery Hall
23	ロンドン→オックスフォード (バスで移動)	オックスフォード大学	移動、チェックイン、大学訪問	オックスフォード大学: Christ Church
24	オックスフォード市内	Mini自動車工場、コッツウォルズ	市内FW(現地住民にインタビュー)	オックスフォード大学: Christ Church
25	オックスフォード市内	ブレナム宮殿	現地学芸員へのヒアリング、インタビュー調査	オックスフォード大学: Christ Church
26	オックスフォード→ロンドン・ヒースロー空港(バスで移動)ロンドン(18:20)発→香港経由	キャセイパシフィック航空		
27	→成田20:35着の予定が遅延により22:30着		終電に間に合わず半数が空港周辺のホテルに宿泊	成田Uシティホテル

Contents

1. Preparatory Research	...	1
2. The University of York	...	16
3. Fieldwork Presentation	...	36
4. Diaries	...	66
5. Photos	...	77

1. Preparatory Research

York

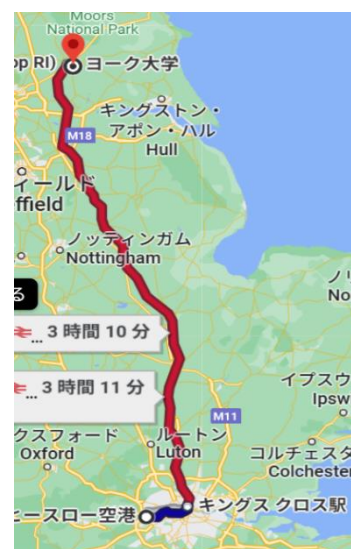
Climate

- ・ヨークは日本よりも北寄りで、ロシア内陸部と重なる位置にある
- ・西岸海洋性気候で、緯度が高い割に暖かく、2022年の年間気温は $-3^{\circ}\text{C}\sim 25^{\circ}\text{C}$
- ・気温の起伏や四季は日本と類似している
- ・滞在予定の8月、日中は日本の夏程度だが、夜は冬並みの肌寒さ ($10^{\circ}\text{C}\sim 30^{\circ}\text{C}$)
- ・年間の降水量は少なく、ピークは6、8、10月。年間平均は623 mm (日本：1718 mm)

Route from Heathrow Airport to the University of York

Train

Total: 3時間10分 約20,000円
Heathrow Terminal 2&3
↓ 60分 (Piccadilly/Cockfosters)
King's Cross St. Pancras
↓ 1時間5分 (LNER/Edinburgh)
York, Rail St.
↓ 15分 (66/University of York)
Wentworth Way
↓ 2分
York Univ.



Bus

Total: 7時間 約8,000円
London, Heathrow Airport Terminal 2&3
↓ 55分 (National Express/NX502)
London, Victoria Coach St.
↓ 5時間20分 (National Express/NX561)
York, Rail St.
↓ 15分 (67/the University of York)
Wentworth Way
↓ 3分
York Univ.



Important Points



- ・電車の遅延や運行取りやめが特に土日は頻繁に発生
- ・バスは合図をしないと止まってくれない
- ・バスは基本的に前払い制(オイスターカード、料金)
- ・オイスターカード(交通ICカード)の利用で割引
ex) 地下鉄 4.9 ポンド(約 690 円) → 2.4 ポンド(338 円)

English

Yorkshire Accent

- ・イギリス英語の中では聞き取りやすい部類
- ・ヨークシャーの中でも様々な種類の訛り方がある
ex) 母音が短母音になる、「h」の省略、「th」の代わりに「v」

Slang

- ・ grumpy(不機嫌な) → mardy
- ・ anything → awt, nothing → nowt
- ・ myself → me'sen
- ・ be asleep → be sock on

History

Ancient Roman Empire

ローマ帝国：紀元前 4 世紀ごろに誕生

西暦 43 年 ブリタニア統治開始、ロンドン建設

西暦 71 年 都市「エポクラム」建設→ローマ軍の駐屯地に→現在のヨーク

西暦 122 年 ヌールズの北でハドリアヌスの長城の建設開始

395 年 東西に帝国を分割

ゲルマン人の侵入により滅亡

アングロ・サクソン人が有力に→イギリスは分裂し七王国時代へ

(ヨークはノーサンブリア王国の首都に)

Viking Age

867 年 ヴァイキングによるヨーク侵略

954 年 アングロ・サクソン人が奪い返す

1066 年 ノルマンディー公ウィリアム、イングランド王に

1067 年 ヌールズを征服

Kingdom of England

12 世紀 フランスとの戦いに敗北、スコットランド、ウェールズと対戦

1337~1453 年 百年戦争 (フランス VS イングランド)

→イングランド敗北

1455~1485 年 薔薇戦争 (ヨーク家 VS ランカスター家) →ヨーク家の勝利

1461 年 ヌールズ朝成立

→しかしすぐに倒され、1485 年テューダー朝成立

Sightseeing

York Castle Museum

- ・ 1938 年創設
- ・ ヨーク城の南東にある刑務所の中にある
- ・ 過去 400 年位のイギリスの歴史的な暮らしを展示
- ・ 世界で最も古い再現室内ストリートがあり、
伝統衣装を着たキャストさんが案内してくれる



Jorvik Viking Center



- ・ ヴァイキングに占領されていた 9 世紀の歴史を学べるアトラクション併設型の施設
- ・ 1984 年にオープン
- ・ 嗅覚、聴覚、視覚で楽しむアトラクション
- ・ ヴァイキングの暮らしの展示

The Shambles Street

- ・ 13 世紀から形成され始め、肉屋の通りとして栄えた
- ・ 狭い通りと木造建築、張り出した外壁、木の枠
- ・ 1885 年には肉屋が 31 店舗あった
→現在肉屋は 1 店舗のみ
- ・ 観光客向けの土産店や、飲食店が並ぶ
- ・ ハリーポッターに登場するダイアゴン横丁のモデル
- ・ 壁が突き出している部分に肉を吊るし、道路の凹みに生ごみを捨てていた
- ・ 当時の壁のフックは現在にまで残っている



Bettys Tea Room

- ・ 1919 年にハロゲートに 1 号店がオープン
- ・ 1936 年ヨークにオープン
- ・ 名物：ファットラスカル（スコーンとビスケットの中間）
ヨークシャーティー（ベティーズのオリジナルブレンド、英国一売れている）

Building

- ・ヨークの街は直径 1 km、全周 4.5 kmの城壁で囲まれている



York Castle

- ・ウィリアム 1 世が 1068 年に建てた
- ・もとは木造だったが、デーン人との争いの中で破壊と再築を繰り返し、ヘンリー 3 世の時代に石造になった



York Minster



- ・英国国教会においてカンタベリー大聖堂に次いで 2 番目に位が高い教会
- ・火事や侵攻民族による破壊と再建を繰り返して 250 年以上かけ 15 世紀に完成
- ・国内最大の 128 のステンドグラスのコレクションがある（国内にある中世のステンドグラスの 60%）

Food

Yorkshire Pudding

- ・卵、小麦粉、牛乳または水を混ぜて焼いたもの
- ・イギリス全土で食べられている
- ・「サンデーランチ」や「サンデーロースト」と言われる日曜日の食事によく出てくる
- ・ローストビーフの付け合わせに出てくることが多い



York Ham

- ・ヨーク発祥のハム
- ・北東部で育てられているヨークシャー種の白豚から作られる
- ・乾燥していて塩辛いのが特徴

KitKat

- ・ヨークのラウントリー社が開発
 - 1937年にキットカット・チョコレート・クリスプとして販売
- ・もともとはミートパイのことを指す名前で、18世紀イギリスでは流行の用語だった
- ・1988年にネスレ（スイス）に買収されキットカットの販売はネスレが引き受ける

Terry's Chocolate Orange



- ・1932年にヨークで販売されてから大ヒット商品になった
- ・お土産としても人気
- ・毎年100万世帯が食べていると言われている
- ・イギリス、アイルランド、アメリカ、カナダ、日本、ニュージーランド、オーストラリアで販売されている

The University of York

- ・ 1963 年に設立された国立大学
- ・ 2012 年にイギリス国内最高峰の研究型公立大学 24 校による構成団体である「ラッセル・グループ」に加入→全英トップランクの大学であるといえる
- ・ 合計 11 のカレッジで構成されている（西キャンパスに 6 つ、東キャンパスに 5 つ）
- ・ 学部は全部で 71 個ある
- ・ 様々な大学ランキングで常に高い評価を獲得

Student life in the University of York

Means of Transportation

- ・ 自転車→整備された道、無料の修理屋、無料の自転車貸出がある
- ・ 車→大学の近くに駐車場
- ・ バス→東西のキャンパス間を無料で移動、市街地から大学まで 20 分ほどのバスサービスがあり、専用のアプリを入れると時刻表が分かる
- ・ タクシー→学生用の割引制度、もしもお金を持っていなかったときは学生証を渡して次回払うことができる

Meal

- ・ 幅広い種類のレストランやカフェ、バー
- ・ 図書館カフェ
- ・ 大学のサイトからオーダーすると指定したテーブルまで食べ物を届けてくれるサービスもある

Student Connect

- ・ 学生同士をマッチさせるサービス。1 対 1、もしくは小グループを作ってくれる趣味、興味のあること、自分の性格、どんな相手を探しているのかなどについてメールを送ると、担当の人がその情報をもとに合う人を探してくれる

The University of York and Music

Faculty of Music

- ・ 実践的な音楽制作、音楽学、分析、音楽技術によって作曲、音楽心理学、音楽教育など、その他多くの分野へと選択肢が広がる
- ・ 学生のキャリアや希望に合わせて学習プログラムを構成
- ・ 楽器や声楽の 1 対 1 の授業がある

London



ロンドン、イングランドの南東部に位置する世界最大都市のうちの一つである。バッキンガム宮殿やビッグベン、大英博物館、ナショナルギャラリーなど有名な建造物や美術館が多く存在する。

Tower of London

- ・ 女王陛下のロンドン塔の宮殿及び要塞
- ・ 「ホワイト・タワー」を中心に城壁が巡らされている。
- ・ アン・ブーリン（ヘンリ8世の2番目の妻）の幽閉、処刑→幽霊の噂
- ・ イギリスにとっての中心的存在（文化的価値）



London Central Mosque



- ・ 1977年完成
- ・ 黄金のドームとミナレット
- ・ 豪華なシャンデリアやスタンドグラス窓、美しいイスラムの伝統的装飾
- ・ ヨーロッパの人々が「他者」とみなす非キリスト教徒に対してどのような視線を向けているのか、ロンドンに住むイスラム教徒の人々にインタビュー調査をする。

Victoria and Albert Museum

- ・ ロンドンのサウスケンジントンに位置する
- ・ 世界有数の芸術のデザインの博物館
- ・ 19世紀を代表するイギリスのデザイナー、詩人、社会活動家であるモリスにフューチャーしたモリスルーム



Museum of London Docklands



- ・ ロンドン中心街から電車で約 30 分
- ・ ドックランズ=1880 年ごろの世界最大の貿易港
- ・ 1600～現代までの貿易に関する歴史、発展についての展示
- ・ 建物はジョージ朝時代に砂糖の倉庫として使われていた

West End

- ・ ロンドンの商業演劇街
- ・ ニューヨークのブロードウェイと並ぶ劇場街、40 余りの劇場が集中
- ・ ソンドハイム劇場、リリック劇場、アデルフィ劇場、セント・マーティンズ・シアターなど



Boots



- ・ イギリス最大手のドラッグストア
- ・ イギリス国内に 2500 店舗
- ・ 1849 年イギリス中部のノッティンガム発祥
- ・ ヴィーガンコスメや有名ブランド

Harrods

- ・ ピカデリー線、ナイツブリッジ駅
- ・ ロンドン大学から電車で 25 分ほど
- ・ 1849 年創業
- ・ イギリス最大の老舗高級百貨店
- ・ かつては王室御用達



Portbello Road Market



- ・ ロンドンのヴィンテージマーケット
- ・ ノッティングヒルゲート駅から徒歩 5 分
- ・ 毎週金、土、日曜日に開催
- ・ 金曜→古着、土曜→デザイナー商品、日曜→雑貨

Queer Britain

- ・ 英国初の国立 LGBTQ + の美術館
- ・ 同性愛を犯罪とする法が一部撤廃されてから 5 年目の節目として 2017 年建設
- ・ 主に絵を中心としたアート作品の展示
- ・ 「祝福」が大きなテーマ、歴史上の悲惨な出来事についての言及があまりない



Oxford

- ・ 起源は 12 世紀に遡る、イギリス南西部に位置する最古の大学の街
- ・ “Oxford” の語源は、「牛が渡る浅瀬」を意味する中英語“Oxforde”から
- ・ ロンドンからコーチ（長距離バス）でおよそ 2 時間

The University of Oxford

- ・ 英語圏では最古の大学
- ・ 4 つのパーマネントプライベートホールを含む、43 のカレッジを持つことが特徴
- ・ 43 のカレッジは扱う学部や保有する設備など、それぞれ異なる特性を持つ

Christ Church

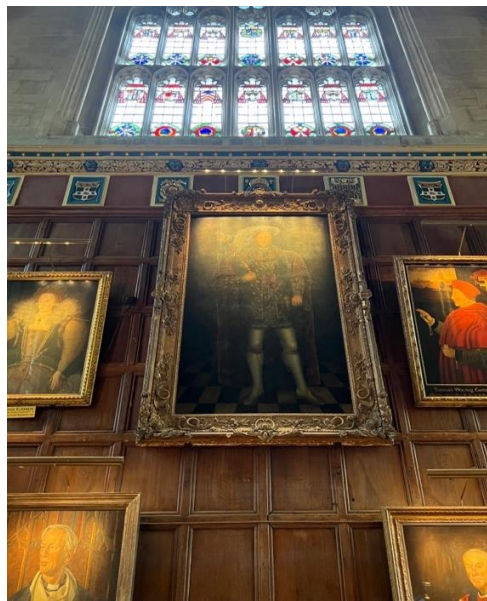
- ・ オックスフォード大学が保有する最も大きく、裕福なカレッジ
→2022 年には 770 億ポンドの寄付金（日本円でおおよそ 13 兆円）
- ・ 過去 13 人の首相を輩出したカレッジ（大学全体では 15 人を輩出）
- ・ 『不思議の国のアリス』『ハリーポッター』など、多くの文学作品の舞台に
- ・ 当カレッジの建築様式は、他大学建設の際の手本にもなっている



↑左：昼間 / 右：夜のトム・クアッド（中庭）

The Great Hall

- ・ クライストチャーチ構内に建てられたホールであり、主に食堂として使われている
→最大で 300 席が配置可能
- ・ 『ハリーポッター』に登場するホグワーツの食堂のモデルとして有名
- ・ イングランド内戦時は議会場としても使用された
- ・ ヘンリ 8 世など、当カレッジにゆかりのある著名人たちの肖像画が壁一面に並ぶ



↑左：グレートホール内部 / 右：グレートホール正面奥、ヘンリ 8 世の絵画

Christ Church Cathedral

- ・クライストチャーチ構内に建てられた大学礼拝堂
- ・ロマnescク様式とゴシック様式、二つの特徴を併せ持つ
- ・聖フリードワイドによって 12 世紀に建設される
 - その後 16 世紀にヘンリー 8 世の手に渡り、再建される
- ・現在、国教会教区の大聖堂と大学の礼拝堂の二つの役割を持つ
 - 聖歌隊を持つなど、カレッジ構内にありながら、歴とした大聖堂



↑左：クライストチャーチ大聖堂内部 / 右：大聖堂正面奥、ステンドグラス

Academic Site

Ashmolean Museum of Art and Archaeology

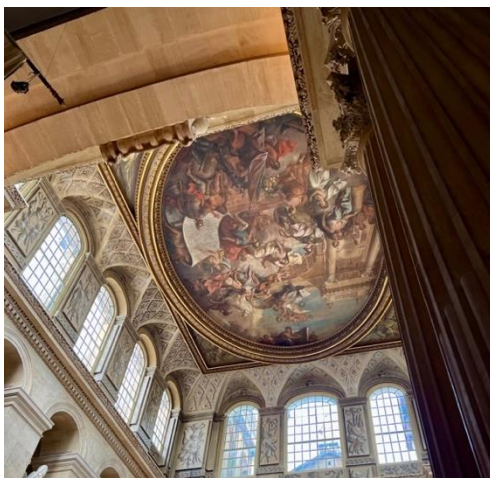
- ・ 1683 年設立の芸術や考古学に関する博物館
- ・ エジプトのミイラから現代芸術まで、世界的に有名なコレクションを有している
- ・ 日本人画家による歌舞伎の作品展示が行なわれるなど、日本との関連性も高い



↑左：アシュモレアン博物館 / 右：名物の一つであるバイオリンの名器の数々

Blenheim Palace

- ・ オックスフォード郊外ウッドストックに位置する、バロック様式の宮殿
- ・ アン女王から初代マールバラ公爵ジョン・チャーチルに贈呈された宮殿
→スペイン継承戦争にてフランス軍を破った功績を称えた
- ・ 第 61 代イギリス首相ウィンストン・チャーチル誕生（1873）の場所として有名
- ・ 広さ・規模では、国内最大の大豪邸
- ・ イギリスの文化から歴史、階級まで網羅的に吸収できる場所

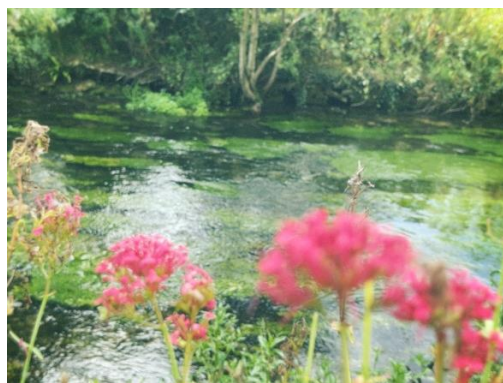


↑左：グレートホール天井の絵画 / 右：ステュアート・アン女王の王冠

Nature

Cotswolds

- ・ クライストチャーチからタクシーでおよそ 2 時間の石造りの家々が特徴的な地域
- ・ “Cotswolds”の意味は、「羊ヶ丘」
→羊の遊牧地が多い地域
- ・ 綺麗に整備された花々が美しい住宅路地
- ・ 『ハリーポッター』のロケ地になったことから有名に



↑左：特徴的な石造りの家 / 右：コッツウォルズの透き通った小川と花々



↑左 / 右：コッツウォルズのバイブリートラウトファーム
昔ながらのイギリスの緑に満ちた空気を体験できる

Stores

THE BEAR

- ・クライストチャーチから徒歩3分、23時まで営業している
- ・1242年創業のオックスフォード最古と言われるパブ



↑左：THE BEAR 外観 / 右：編集者が購入したジンジャーハイボール

Specialty

MINI

- ・MINI はイギリスで生まれた、都会生活向けの自動車ブランド
- ・1959年に世界初のMINIが造られる
 - アイコンニックなデザインで、現在では日本でも見られるように
- ・1913年にモーリス社から始まったオックスフォード工場
 - オックスフォード駅からバスで40分
- ・第二次世界大戦では飛行機やトラック、パラシュートも製造
- ・1953年からクラシック版MINIを製造
- ・ドイツのBMWが買収した後も、MINIはイギリス国内で製造を続けている



↑左：MINI オックスフォード工場外観 / 右：オックスフォード工場内部
MINI 公式ホームページより (https://www.mini.co.uk/en_GB/home/why-mini/mini-uk-production/book-a-tour.html)

2. The University of York

Summer course in the University of York

授業形式

加藤ゼミのゼミ生 7 人と、海外文化実習の受講生 4 人の計 11 人で授業を受けた。メグ先生が担当してくれた。ペアワークやグループワークが中心で、発言する機会の多い授業だった。授業中は常に英語で話した。

一日の流れ

Session1	Breaktime	Session2	Lunch time	Session3
授業	休憩	授業	昼食	授業
9-10:30AM	10:30-11AM	11AM-12PM	12-1PM	1-3PM

ダーウェントカレッジ

- ・植物が多く、鳥が沢山いて、自然豊かな環境だった。
- ・カフェテリア、ジムやプール、図書館など多くの施設があり充実していた。
- ・大学の職員は皆親切に対応してくれた。

授業内容

Tour of the University of York

ボランティアのヨーク大学の学生の人にキャンパス全体を案内してもらった。

Learning Log

一週間に一度、イギリスで生活して発見した文化の違いについて小レポートを書いて提出した。講義で習った DAE サイクル (Describe : 説明、Analysis : 分析、Evaluate : 評価) に沿って文章を構成した。

Differences between Japan and UK

イギリスと日本の、挨拶の仕方や天気の話などの文化や習慣の違いについて学んだ。文化や習慣の違いは、目に見えない宗教や信念の違いから生じていることを教えてもらった (The tip of iceberg)。

Cultural Visit

ヨークミンスターとウィットビーに行った。行く前に、それぞれの文化や歴史について授業で学習した。どちらもメグが案内や説明をしてくれた。

Presentation Skill

プレゼンテーションの正しい方法や、効果的なパワーポイントの作り方について学んだ。

Research Project / Interview

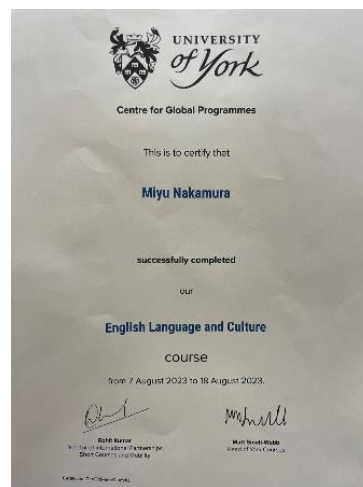
グループに分かれて、それぞれの研究に沿ったインタビューの質問を考えた。効果的な先生のアドバイスを受けながら考えた。実際に、ヨークの市街地に出向いて、街の人にインタビューを実施した。

Final Presentation

インタビューの結果をグループごとにまとめて、パワーポイントを作成し、プレゼンテーションをした。

Farewell Party

最終日に、メグとプログラムマネージャーのスーザンが別れ会を開いてくれた。サンドイッチやケーキを用意してくれて皆で食べた。最後に終了証を渡してくれた。



Feedback from Meg

千明瑚海

控えめだが思慮深く、慎重なアプローチで忍耐強く課題に取り組んでいた。授業を通して、自信を持って話せるようになった。物事を客観的に観察していた。ラーニングログでは、ストリートアートとアートギャラリーについて述べ、全ての年齢層の人々が利用していることに着目した。

藤巻結衣

どんな課題にも根気よく取り組んでいた。最初と比べて、人前で自信を持って流暢に話せるようになった。プレゼンテーションでは、効果的な表現を利用していた。ラーニングログでは、書店について述べた。また、ウィットビーの墓地が観光スポットになっていることに着目した。

猪瀬文彌

自信を持って熱心に授業に参加し、アカデミックスキルを向上させようと努力していた。特にディスカッションの場面で積極的に発言をしていた。ラーニングログでは、イギリスの建物の構造と、自動車の利用について述べた。

一優真

とても責任感が強く、授業での活動に熱意を持ち参加していた。語彙力が向上し、多くの知識を吸収していた。批判的思考をすることができていた。ラーニングログでは、コーヒーの文化とイギリスの博物館の二点について述べた。非常に客観的かつ高いレベルの観察力で考察した。

久野華子

楽しみながら積極的に授業に参加し、リーダーシップを発揮した。自分のペースで効率的

に課題をこなしていた。ラーニングログでは、イギリス人の王室に対する態度と、建造物の二点について述べた。

宮川奈那美

コースが進むにつれ、参加意欲と自信がどんどん向上し、グループに大きく貢献した。非常に優れた資料を作成し発表に臨んだ。ラーニングログでは、イギリスの店での接客の特徴と、スーパーマーケットの多様性に着目した。

中村実優

学習に対して非常に前向きな姿勢を示し、根気強く課題に取り組み、グループワークでは話し手と聴き手の両方を上手にこなしていた。観察力と分析力に優れていた。ラーニングログでは、博物館の入場料が無料であること、イギリスでの演劇鑑賞の人気の高さの二点に着目した。

大河原優希

優れた批判的思考力を発揮し、課題に慎重に根気強く取り組んだ。物事を客観的に観察することができていた。ラーニングログでは、街の環境の清潔さと図書館の特徴について述べた。

佐々木ひろ

グループワークで、自分の意見をはっきりと述べていた。非常に高い批判的思考力を持ち、効率的に課題をこなしていた。ラーニングログでは、イギリス人のマスクの着用率の低さと感情表現の方法の関係に着目した。もう一つは、公共の場での LGBTQ カップルのオープンさについて述べた。

武智雄大

熱心に授業に参加し、クラスを盛り上げていた。ディスカッションでは率先して様々なアイデアを出し、知識をクラスメイトに共有した。ラーニングログでは、イギリス人の公共の場での愛情表現の特徴と、地下鉄の不快感について述べた。

山田希実

全ての課題に熱心に取り組み、アイデアや意見を積極的に出していた。常に、学びや練習の機会を最大限に活用し、クラスに貢献した。ラーニングログでは、ボトル入りの水とそれが与える環境への影響について述べた。二つ目のログでは、寒い気候にもかかわらず薄着のイギリス人が多いことに着目した。

Cultural Visit

York Minster

ヨークにある修道院付属の大聖堂

〈歴史〉

- 627年 最初の木造のキリスト教の教会が建つ。
- 633年 最初の石造りの教会が建築される。
- 1069年 襲撃によって大聖堂が焼失。新しい大聖堂の建設が始まる。
- 1225年 新しい身廊の建設が始まる。
- 1475年 現在のゴシック様式の姿になる。

その後、幾度かの火事や第一次世界大戦の戦火に見舞われたが修復が行われ現代にまでその姿を保っている。

〈特徴〉

○ゴシック建築

ミンスターのゴシック様式の始まりとなった部分は1225年から1255年頃に建築された。次の2世紀にわたり、現在有名な建築の多くが完成した。1921年に建築が始まった身廊は、完成までに60年以上かかり、英国の大聖堂で最も大規模な中世ゴシック様式の身廊となった。

○ステンドグラス

ヨークミンスターには英国最大の中世ステンドグラスがあり、最も古いものは12世紀後半に作られた。第一次、第二次世界大戦時、これらのステンドグラスを保護するために、全109枚が一時的に撤去された。



Whitby

イギリスのノースヨークシャーに位置する港町

〈Abbey〉

ウィットビーにある修道院。最も有名な観光スポットの一つで、英国教会の歴史における重要な建築物である。ブラム・ストーカーによる小説「ドラキュラ」で、主人公のドラキュラが訪れた場所としても知られている。ゴシック様式が特徴的で、最初の修道院は657年に建設された。1540年代、プロテスタントの宗教改革の一環で、ヘンリー8世のもと、大部分が破壊された。修復が進められたが1914年、ド



イツ軍の砲撃によって修道院はさらに崩壊した。このように、この修道院では歴史上で非常に重要な出来事が起きた。従って、その価値を守るため、崩壊したままの状態でも保護されてきた。現在は英国遺産という機関によって保存、管理がなされている。

〈Fish and Chips〉

白身魚を衣で包んで揚げ、ポテトフライを添えた、イギリスの伝統的な料理。塩やマヨネーズをつけて食べる。1863年に初のフィッシュアンドチップス店が誕生したと言われている。



〈Queen Victoria〉

ヴィクトリア女王とアルバート公は非常に夫婦仲が良かった。アルバート公が亡くなった後、ヴィクトリアは自身が亡くなるまでのおよそ40年間にわたり、黒い喪服だけを身につけた。また、彼女はジェットと呼ばれる黒い宝石を好んだ。ウィットビーにはジェットのアクセサリーを売る店が数多くあった。



サマーコースを受講した感想

- ・メグには積極的に話しかけに行こうと心がけていましたが、メグはよく聞いてくれるだけでなくタイミングよく意味的・文法的なミスを指摘してくれたので**日常的なコミュニケーションがスピーキング能力の向上につながった**とかなり実感しています。
- ・サマーコースでいちばん良かった点は、**コミュニケーション力が身についた**ことです。受講以前は正しい英語で伝えるということに重きをおいていましたが、**意味を伝えることが最重要で正しい英語はその後でいい**ことを学びました。**単語や短い文章の方が**より自分の言いたいことが伝わりました。
- ・**イギリスを客観的に分析**する楽しさに加え、仲間たちと議論し合うことで考えがより深まった2週間でした。サマーコースの内容にインタビュー調査が含まれていたことで、英語で話しかけたり、雑談を楽しんだりすることのハードルが一気に下がり、楽しみながら調査ができました。英語のスキルが飛躍的に上がったわけではないですが、**会話を楽しむ余裕と勇気**を持つ機会となりました。
- ・サマーコースでは、物事に対する新たな考え方を学びました。まず**事実だけを観察し、それを考察して推測すること、そして自分の経験を交えて意見を述べる、という段階を踏んだ思考回路**です。他文化を考える際、偏見を持ってしまうものですが、サマーコースで習ったこの考え方は常に持つておきたいと思います。
- ・ペアワークでのリサーチを通して、データ収集の仕方、効果的なインタビューの方法、結果の分析、プレゼンテーションの仕方など、さまざまなことを学ぶことができました。また、イギリス文化を学ぶ中で、**日本文化を再度見つめ直す**ことができ、新しいものの見方を習得できたと思います。
- ・「英語を話す」ことに対して自信がなく、つい声が小さくなってしまっていたのですが、メグ先生の**“project”**という言葉をはじめとした様々なお話を聞いて、**無理に文章を組み立てようとせず、伝えたい単語だけでも大きな声で話すことが大事**だと気づき、以前より英語を話すことに抵抗がなくなりました。
- ・ヨーク大学でのサマーコースは知識面、技術面ともに非常に有益なものでした。まず、知識面では**身の回りの実例を通して文化という概念を深く理解**することができました。技術面ではどのようにアンケートを実施するのか、プレゼンテーションを行うのかという**アカデミックな手法**について学ぶことができました。
- ・サマーコースでは、ペアやグループでのディスカッションの時間が多く設けられていたため、**自分の考えていることを相手に英語で伝える力が身につきました**。また、**文化や思考の違い**について学ぶことができました。
- ・二週間のサマーコースにおいて、実践的な英語だけでなく、**客観的に思考し分析する**方法や調査の仕方、**ヨークの歴史や文化**などさまざまなことを学ぶことができ、とても良い経

- 験になりました。今後大学生活で活かし、学びをより深いものにしていきたいと思います。
- ・積極的に英語を話す姿勢を身に着けることができたことと、文化の違いについて深く考えることができたことが大きな成果だったと感じています。特に現地の人にインタビューをした結果をプレゼンする最終課題は大変だったが、その分得られたものが大きかったと思います。
 - ・4年間のイギリス在住経験があったが、授業でイギリスの文化について深く学ぶことで、新たな視点からの発見がありました。特に、同じイギリス国内でも地域によって文化の違いがあることが印象的でした。

Summer Course Presentation

各2人から3人の5グループに分かれ、1つのテーマについてアンケートや文献を利用して調査を進めた。プログラム最終日の8月18日にパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行った。

① What do British people think about non-native speaker's English?

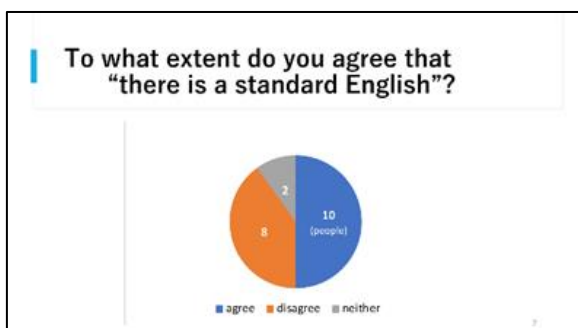
一優真、佐々木ひいろ

**Definition:
Native vs Non-native English speaker**

- **Native speaker** - people who use English as their mother tongue
- **Non-native speaker** - people who use English as a second or foreign language

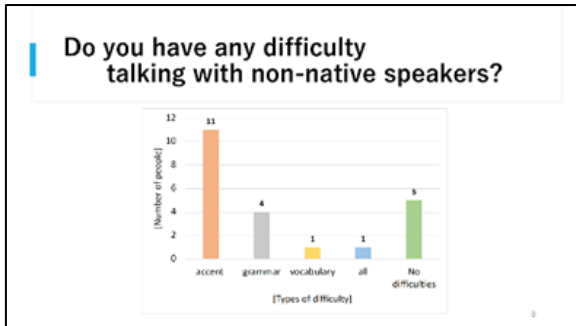
左記の定義のもと、次のことを調査した。

- Standard English
- Difficulties talking with non-native speakers
- Hierarchy of 3 types of English
- Importance of native speakers in English language education

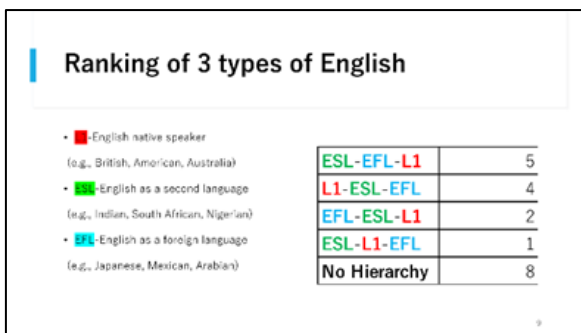


合計20人に4つの質問を行った。回答者の年齢分布は以下のとおりである。

- 16-25 : 10人
- 26-35 : 3人
- 36-45 : 1人
- 46-55 : 5人
- 56- : 2人



今回の質問は複数回答されている項目もあるが、アクセントが突出して課題だと認識されている。



左からヒエラルキーが高位とされる順に並んでいる。

第二言語として話されている英語をヒエラルキーの第 3 位に位置付ける人はいなかった。



ネイティブの話者である英語教師を雇う必要はないとする考えに近い人は 12 人いた一方で、雇うべきであるとする考えの人は 3 分の 1 ほどしか存在しなかった。



研究を深めるための今後の課題として、以下の調査が必要である。

- Influence of our nationality (Japan)
- Different areas in the UK

② How popular is vegetarianism/veganism in the UK?

大河原優希、久野華子、山田希実

Definition

Vegetarianism (1847~)
 ○ plant foods
 × meat
 ※dairy products and eggs

Veganism (1944~)
 ○ plant foods
 × meat, seafood, eggs, dairy products, honey

ベジタリアニズムとヴィーガニズムはどちらもイギリス発祥とされている。それぞれ協会が存在する。

Questionnaire

- ①Gender
- ②Age
- ③Country
- ④Vegetarian or Vegan
- ⑤Reason
- ⑥People who influenced decision
- ⑦Food which substitutes meat

ヴィーガンやベジタリアンでない人には加えて以下の質問をした。

- ・ Would you become vegetarian or vegan?
 - ・ Do you have vegetarian friends or family?
- Yes の場合には、家族や友達について①から⑦の質問をした。

About respondents **20 + 8 (their friends)**

①Gender ②Age ③country

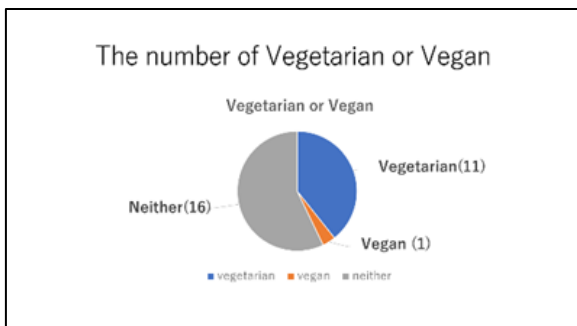
20 females

Age	Number
-16	2
16-25	10
26-35	4
36-45	3
46-55	2
56-65	6
66-	1

8 males

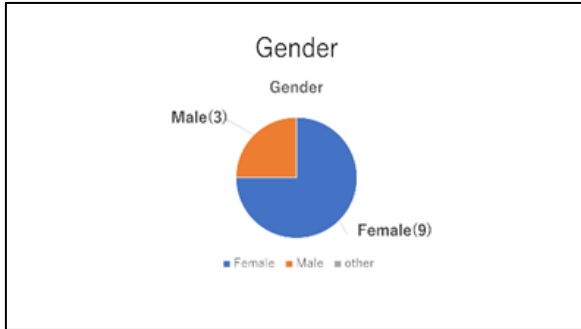
The UK (75%)
The US (14%)
Brazil (3%)
Canada (3%)
Greece (3%)

回答者の性別は女性に偏ってしまっただが、一方で幅広い年齢層の人々に話を聞くことができた。

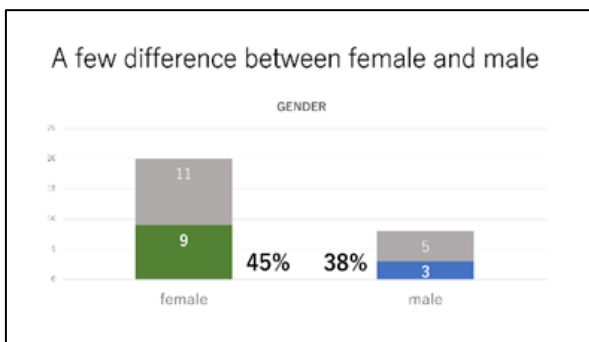


全体の約 40%がベジタリアンだったが、ヴィーガンはさらに少ない。

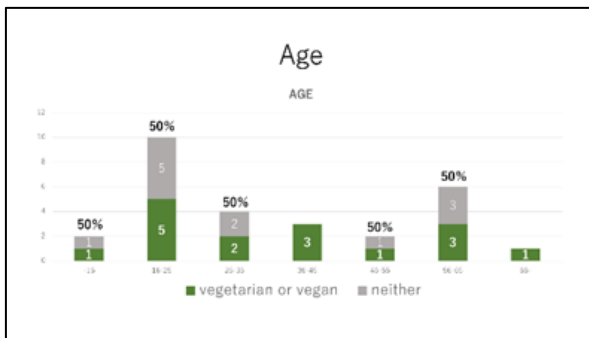
同じベジタリアンの枠組みの中でも人数比が異なることが分かる。



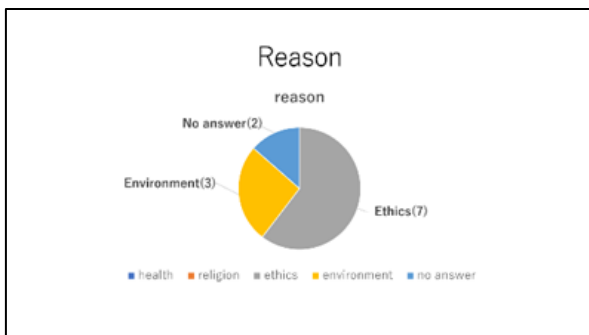
ジェンダーは全体の 45%ほどが女性だった。調査対象の比率が女性に偏っていたこともあり、女性の方がベジタリアニズムやヴィーガニズムに関心があると断言はできない。



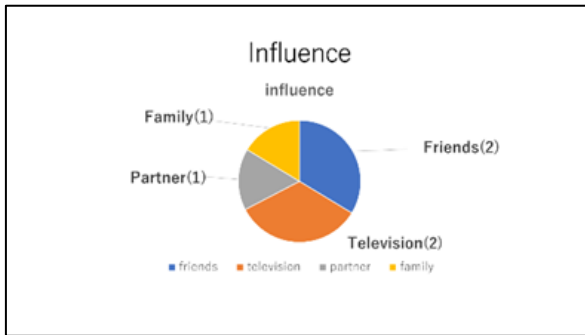
しかし、女性と男性でそれぞれ比率を比べた場合、今回の調査では女性の方がベジタリアンやヴィーガンの割合が 7%高かった。



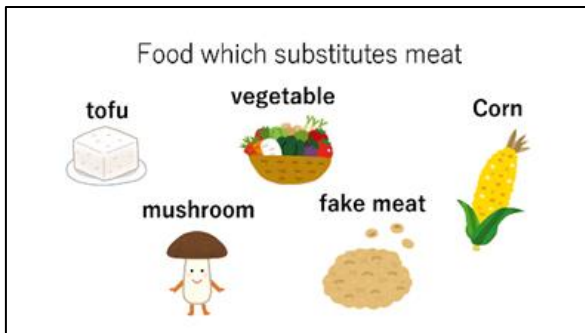
人数としては 16 歳から 25 歳のベジタリアンやヴィーガンが最も多かったが、どの年代も半数以上を占めているということも注目したい。



健康や宗教は理由として挙げられなかった。宗教は調査する場所によってかなり差が開くと考えられる。



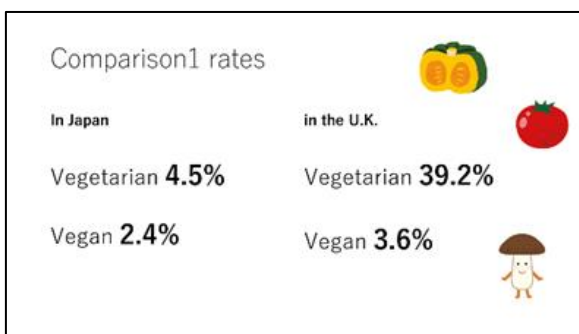
パートナーや家族など、近い関係の相手とではなく、より気軽に話せる友達やメディアなどから影響を受けている。



フェイクミートには植物肉と培養肉が存在する。ベジタリアンやヴィーガンが肉の代替品として利用する以外にも、環境保護や食料の問題改善にも期待されている。



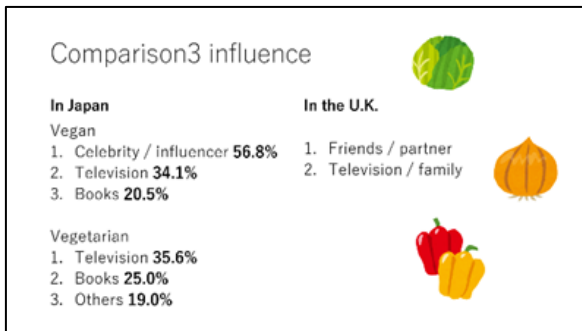
一方でベジタリアンであることを信念とする人もおり、向き合い方や度合いも人それぞれであると言える。



ベジタリアンの割合は日本とイギリスで35%も異なるが、ヴィーガンの割合はほとんど変わらない。



イギリスでは倫理観や環境保全を理由にヴィーガンやベジタリアンになる人が多いが、日本では倫理観はそれほど強く影響しない。特にヴィーガンにおいては、自らの健康のためである人が多い。



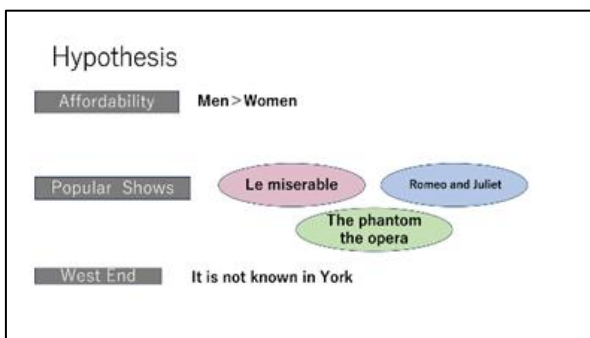
日本人はイギリス以上にメディアやインフルエンサーに影響されやすいことが分かる。



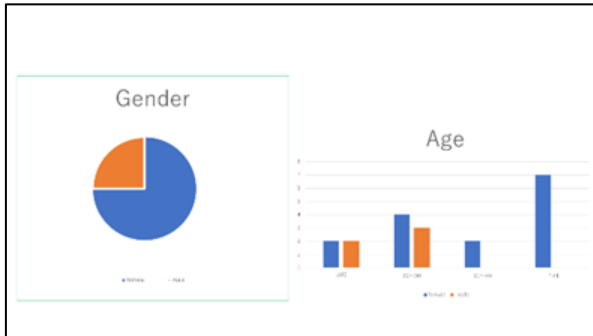
今後調査するうえで、男女比に偏りがないようにアンケートをとることが必要になると考える。また、日本人が倫理観を理由に食肉をやめることをしない理由を探りたい。

③ British Theatre Culture

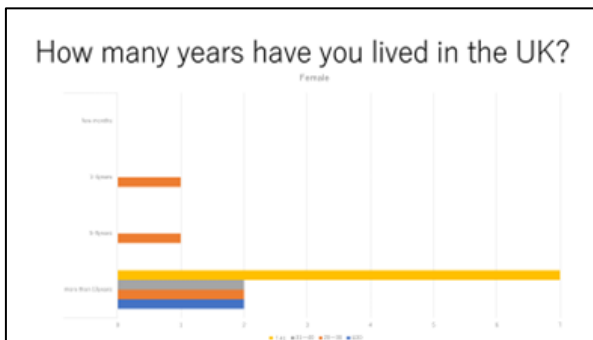
千明瑚海、藤巻結衣



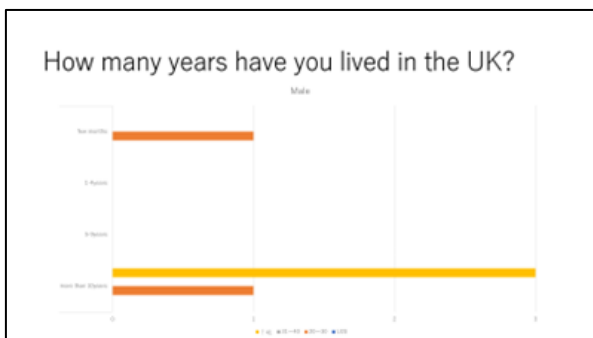
West EndにはYork Theatreが存在する。York内では最も人を集めるシアターである。



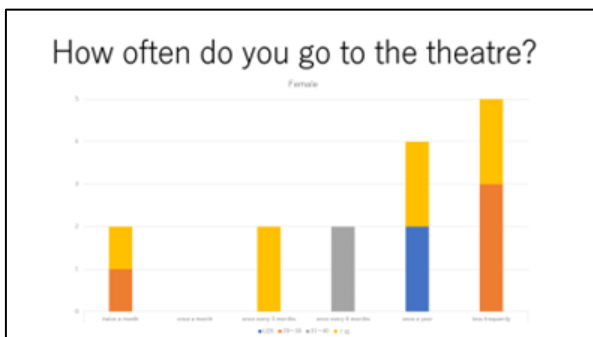
アンケート調査における回答者のジェンダー、年齢は左記のとおりである。ジェンダーは女性に偏り、年齢層は特に男性に関しては若者に偏っている。



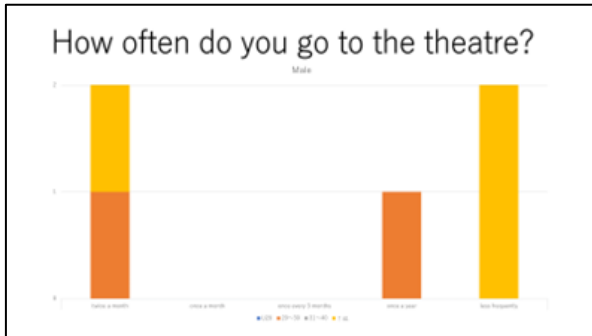
女性回答者の9割が10年以上イギリスに住み続けている人だった。



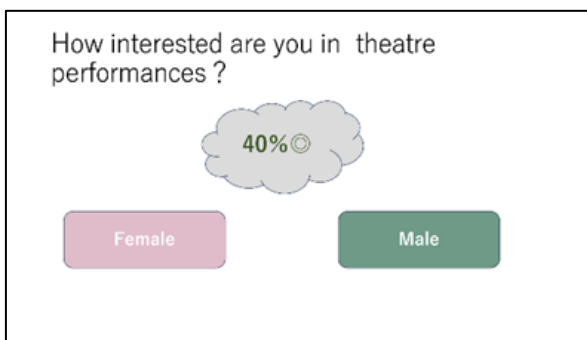
男性回答者の80%も10年以上イギリスで暮らす人であり、イギリスのシアター文化についてある程度知識があると考えた。



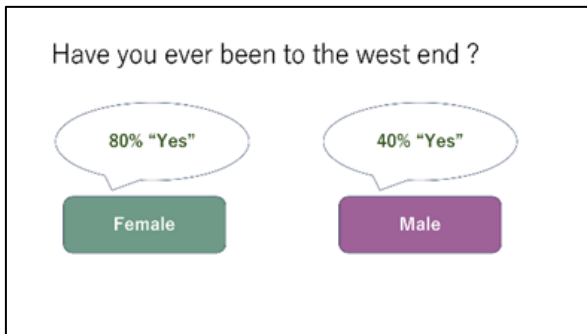
女性はシアターに行かない人の割合が高く、特に30歳以下の若者はその傾向が強い。



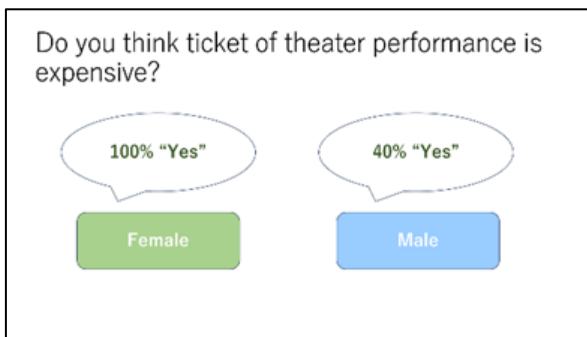
男性はシアターによく行く人と行かない人ではっきり分かれており、傾向はあまり見られなかった。



回答者の65%が1年に一度はシアターに行くのに対して、パフォーマンスに興味を持つ人は40%にとどまっている。以上から、シアターに行くことは習慣のひとつなのではないかと考えられる。



West Endに行ったことのある人の男女比率が40%も異なるのは、シアターだけでなく様々な娯楽が集まる場所だからだと考えられる。



女性はシアターのチケットを高いと感じていることが強く示されている。若い女性がシアターに行かない理由の一つであると推察できる。

Japan	UK
<ul style="list-style-type: none"> • Le miserable • The phantom of the opera • Lion King • × custom 	<ul style="list-style-type: none"> • Matilda • Lion King • Wicked • custom

日本とイギリスで挙げられる演目が異なっていた。また、日本ではシアターに行くことは慣習ではないことも相違点のひとつである。

	Hypothesis	Conclusion
Affordability	Men > Women	Men > Women
Popular show	<ul style="list-style-type: none"> • Le miserable • Romeo and Juliet • The phantom of the opera 	<ul style="list-style-type: none"> • Matilda • Lion King • Wicked
West End	It is not known in York	It is common

さらなる研究での課題として、ブロードウェイとの関係性についても調べる必要があると感じた。

④ A Comparison of Tea Culture in the UK and Japan

中村実優、宮川奈那美

Main theme

- The characteristics of British tea culture
- Traditional Japanese culture

紅茶と緑茶、アフタヌーンティーと茶道の茶会など、それぞれの伝統文化を比較する。

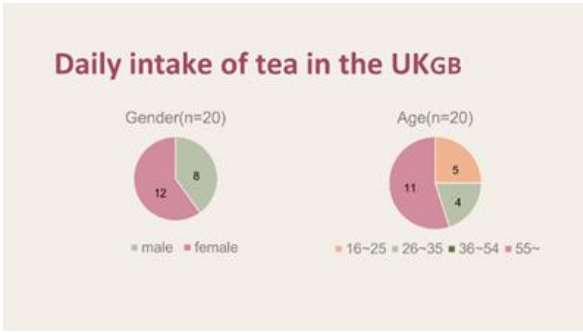
Analysis in JapanJP

During or after meals
While doing something
→to relax

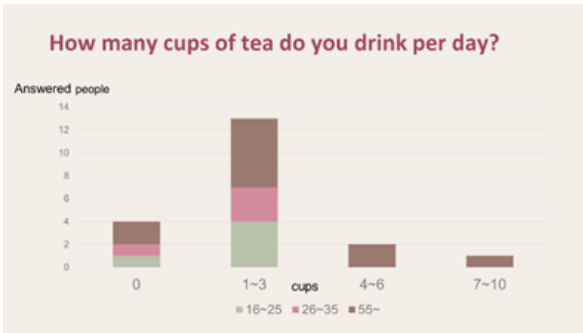
Personal time



例えば、緑茶に含まれるテアニンを摂取すると脳波にα波が現れ、リラックス状態になるなど、科学的にも証明されている。



アンケートの回答者の過半数を 55 歳以上が占めており、年齢層に偏りが生まれてしまった。



どの年代とも 1 日に 1 から 3 カップほど紅茶を飲む割合が高く、全体の 65% を占めた一方、紅茶を飲まない人もどの年代にも存在した。また、4 カップ以上飲む人は全員 55 歳以上だったことから、年を増すほど紅茶を飲むようになると推察する。

Special occasions in JapanJP

Tea ceremony (Sado)

9th century~
Serving and having tea(matcha)
Quiet room and manners
meg.cassamally@york.ac.uk

Analysis
• Japanese hospitality(Omotenashi)
• Space itself

茶室では誰もが平等であるといった茶の湯の精神を説いた千利休のおもてなしは、今の茶道の基礎となっていると考えられる。

In the UKGB

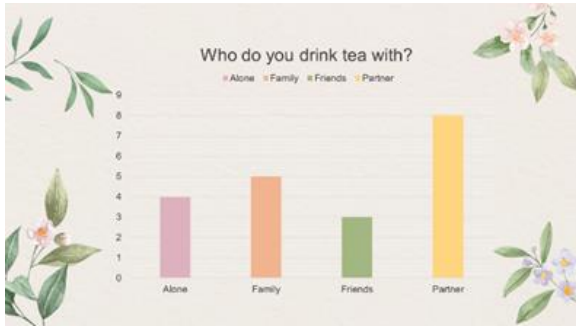
- High tea (afternoon tea)

Traditional tea style
Delicious sweets and meals

Analysis
• conversation
• sweets

Betty's official site

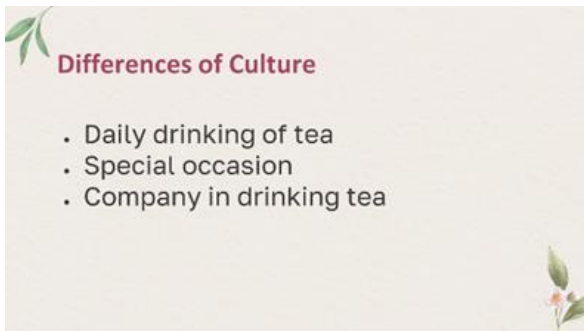
アフタヌーンティーは貴族や上流階級者がたしなむ娯楽として流行し、スコーンやサンドウィッチなどの軽食を紅茶と共に楽しむ場となっている。



40%の回答者がパートナーと紅茶を飲むと答えている一方、友達と楽しむという人は一番少なく15%だった。

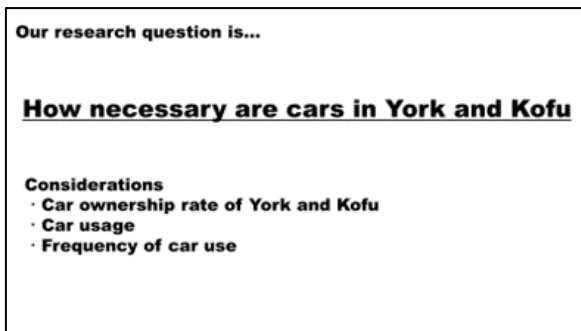


特にイギリスのアフタヌーンティーは社交の場であることが前提だったため、ただのコミュニケーションだけでなく高度な知識が求められた。



イギリスも日本もそれぞれの茶文化が国の中で形を変えつつ伝統として受け継がれている。

⑤ Necessity of Cars in York and Kofu
武智雄大、猪瀬文彌



甲府は人口をはじめ York と似ている個所が多いため、今回調査の比較対象として選んだ。

The reasons for our research question

- York's population is not so different from Kofu's
- York is busier than Kofu
- This is the difference in the quality of public transport.

York と甲府の違いについて、公共交通機関に違いがあると考え、さらに車利用に焦点を絞って調査した。

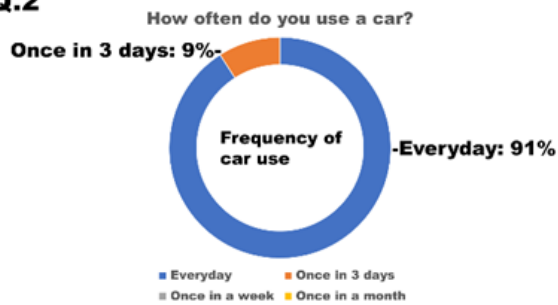
Q.1



York Minster 周辺で 18 歳から 65 歳までの 20 人にアンケートを取った。

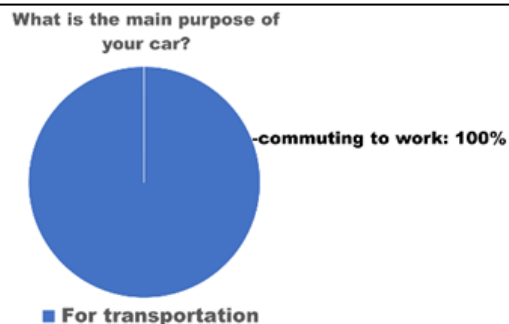
York では車を所有する人の割合は 55% であり、一方イギリス全体の割合は 80% なため、所有率が低い地域だと言える。

Q.2

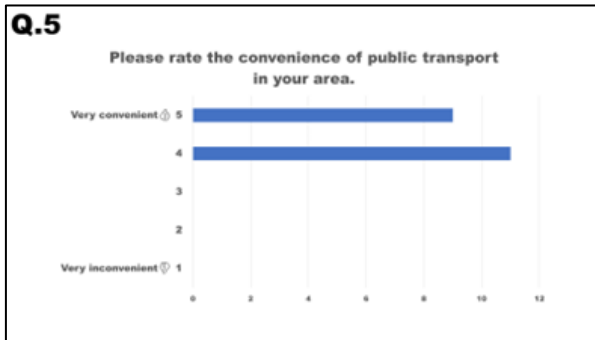


全員が 3 日に一度は車を利用することから、所有率に対して利用率はかなり高い。

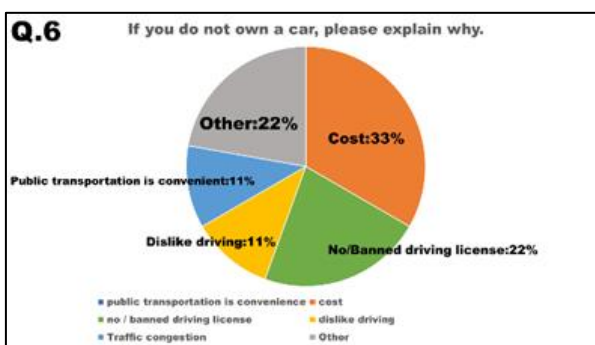
Q.3



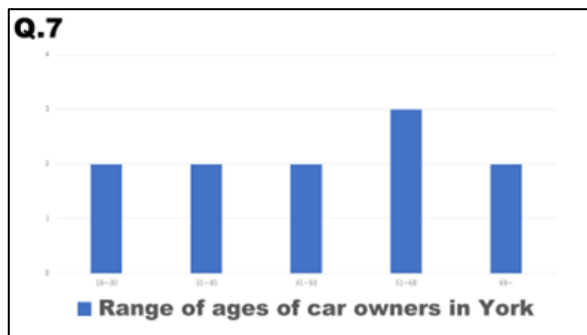
利用率の高さを裏付けると同時に、出勤において必要がなければ購入しなかった人もいるかもしれないことが推察できる。



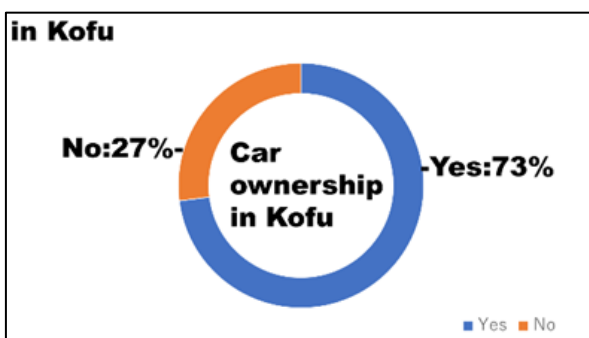
実際に利用して不便だと感じることはほとんどなかったため、York における交通機関の利便性は高いと言えると考える。



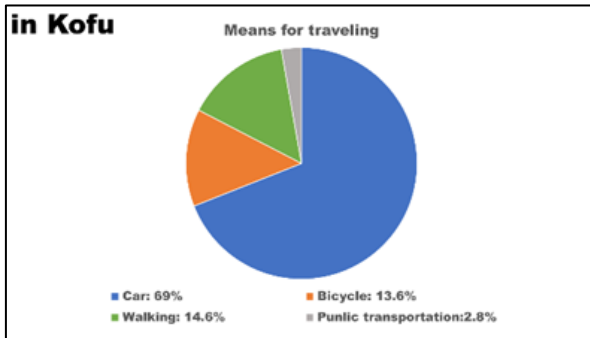
車を所有していない理由について、約 3 分の 1 の人が費用の高さを挙げた。交通機関の利便性よりも、車に関する要因の方が大きいことが分かった。



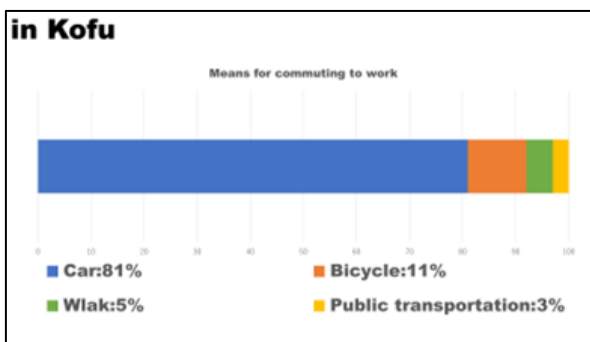
車を所有する人数はどの年代も同じくらいだったが、51 歳から 60 歳の人数は少し多かった。ある程度お金を持っており、移動が大変になる年齢だからだと推察した。



甲府の車所有率は York よりも 28%も高くなっている。



甲府では旅行の手段として車を利用する人が多く、公共交通機関はわずか 2.8%の人しか利用していない。



通勤の手段としても車を利用する人は多く、甲府では通勤や旅行など複数の目的があって車を購入する人も少なくないのではないかと考えた。また、公共交通機関の利用率の低さから、利用しにくいシステムなのではないかとも感じる。

Conclusion

- Although York has the same population size as Kofu
- The public transportation system is more developed than in Kofu

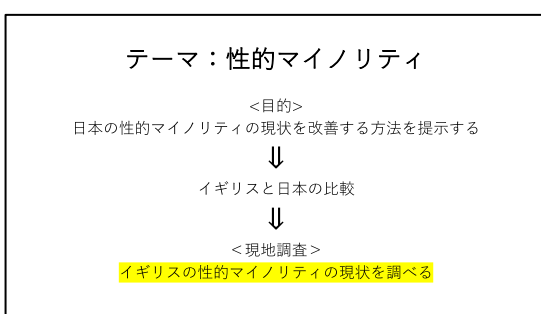
さらに研究を深めるためには、実際に甲府に住んでおり、公共交通機関を利用する人にアンケートをとることが必要である。

3. Fieldwork Presentation

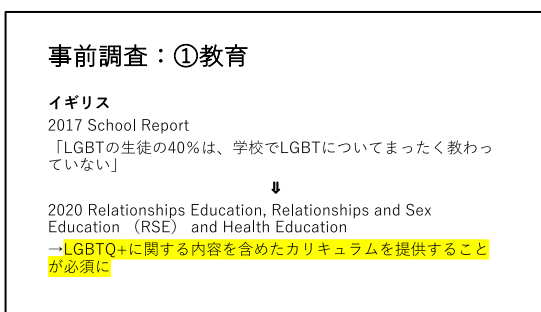
フィールドワーク概要

海外文化実習の一環として、渡航前に自分が研究したいテーマを設定し事前学習を行った。イギリス滞在中は事前調査に基づき、各自インタビューや施設訪問など、現地でしか得られない情報を集めるため精力的に活動した。

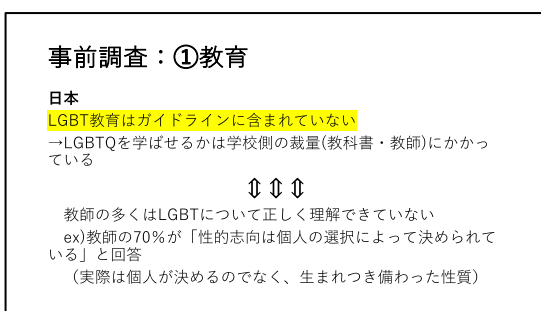
1. 大河原 優希



- ・今回は特に、イギリスで暮らす一般の方々の目線からの性的マイノリティの現状を重視して調査した。



- ・3年という短い期間で現状の問題に適したカリキュラムを組み、提供を必須としていることから、イギリス政府は性的マイノリティの子どももマジョリティの子どもと同様に守られるべきであり、その上で教育は重要であると考えていることが分かる。



- ・加えて養護教諭やスクールカウンセラーなどのサポートが生徒に届かないことが多いというのも問題となっている。

事前調査：②法律

イギリス

Equality Act→様々な差別を**禁止する**法律

日本

2023 LGBT理解増進法→LGBTに関する知識を広げ、国民全体の**理解を促す**ための法律

- ・差別を禁止しない
- ・差別する側に配慮している
- 「全ての国民が安心して生活できるように留意」

- ・日本の法律ではイギリスのように差別に対する抑止力にならないどころか差別を拡大する可能性があるとして、当事者や支援団体から批判が出ている。また、6割の人が反対するなど、世間からも LGBT 理解増進法に厳しい目が向けられている。

現地調査

▶イギリスにおける性的志向の歴史的背景の調査

- 資料
- クィア・ブリテン

▶性的志向の現状、社会的な問題点についての調査

- アンケート**

- ・アンケート調査を重視して取り組んだ。

資料調査

クィア・ブリテン

- ・広場と離れた静かな場所に建てられている
- 開かれた空間ではない印象

- ・様々な背景からの性的マイノリティの権利獲得が説明される
- 絵画、写真、衣服、映像など幅広い展示

- ・スタッフの人々
- 同じコミュニティに属する意識を感じる

- ・貴重なお話を聞くことができた一方で、マジョリティの方はいなかったため、立地に加えマジョリティとの壁を感じた。

アンケート調査

形式：インタビュー

場所：街頭（ヨーク、ロンドン）

内容：①国籍

②性自認

③性的マイノリティの人々の人権は守られていると感じるか

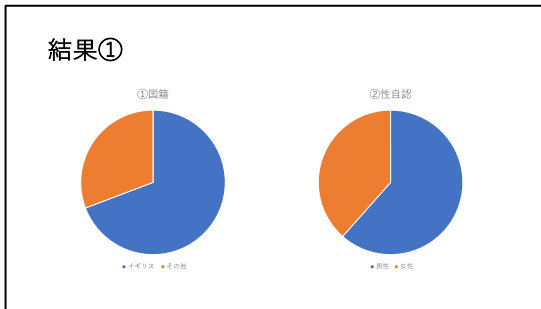
④直近5年間で性的マイノリティの人々への配慮は改善されたか

→⑤なぜ変化したのか？（教育・法律・運動etc）

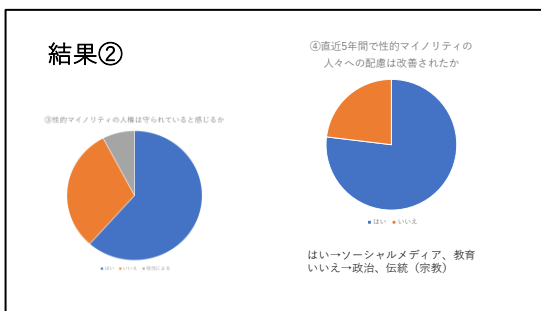
なぜ変化しなかったのか？（宗教・価値観etc）

※今回の調査は性的マイノリティの方に向けた質問は行わない

- ・⑤の質問に関しては、スライドにあげている項目の中で最も当てはまると思うものから順位を付けてもらい、さらに他に考えられる場合は口頭で挙げていただいた。



・13人にアンケートをとった。国籍がイギリスでない方には、3年以上イギリスに住んでいる場合のみイギリスの現状をある程度理解しているとして答えていただいた。



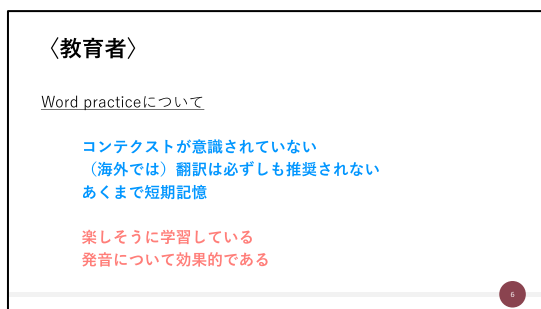
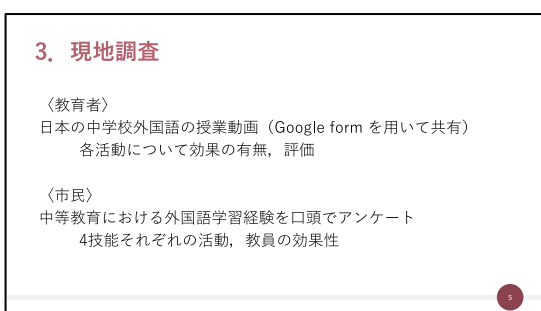
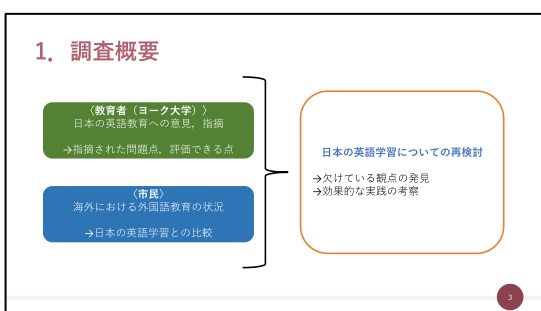
・③で「いいえ」と答えた方はほとんどがLGBTQ 当事者の方だった。「状況による」と答えた方は、仕事上では比較的守られているが、日常生活ではそう感じないと回答した。④で「はい」と答えた方の間でソーシャルメディアの影響力が最も大きいという意見が多く見られた。

感想

- ・当事者とほかの方での問題意識の違い
- ・宗教と性的マイノリティの溝
⇨一方で心は自由なものとして他人の考えを認める気持ち
- ・ソーシャルメディアと教育の影響力

・お話ししたイスラム教徒の方は、「価値観が違うため理解はできないが、そういう人の存在や考え方を否定することもしない」と言っていた。差別を止める上で最も大事な姿勢だと感じた。

2. 一 優真



・海外の中等学校教育ではどのように外国語が教えられているのか、また外国人の視点で日本の英語教育がどのように評価されるか調査。

・2つのアプローチを行った。ヨーク大学のインストラクターたち（教育者）の意見・指摘をもとに日本の英語教育の良い点・悪い点を明らかにする。街頭の市民の外国語教育の経験から、日本の英語教育と比較し、日本の英語教育の再検討に用いる。

・インタビュー内容について Penny William 先生からのアドバイス。

“Secondary education” は身分や国籍によってどの年代を指すかが変わってくるため、“Late adolescent” と修正すること。授業サンプルの提示方法としては、動画にチャプターを付し共有すべき。

・教育者向けのインタビュー：Google Forms を用いて共有、オンラインで回収。市民向けのアンケート：中等教育における外国語学習経験について、4技能に関連した活動や当時の教員の効果性を問うた。全体的に中等教育を思い出すことが難しかった様子で、問う内容をより狭めるべきだったか。

・教育者向けのアンケート。口頭での Word practice については、この通りの回答。（青文字は否定的回答、赤文字は肯定的回答）中でもコンテキストの無意識に関しては多くの共通した回答をいただいている。逆に生徒の楽しげな様子が高評価であったことは意外に思われた。

〈教育者〉

Reading aloudについて

先生の後に続けて音読→発音やリズムの学習
絵を用いた音読法

単なるテキストの暗記は非効果的
文構造やコンテキストの意識、発音にも
単語や文法の吸収に効果的である

〈市民〉

Writingについて
文構造、品詞の理解
ライティングアクティビティ

Readingについて
読解問題
文章の分析（構造、単語ごと）

〈市民〉

Listeningについて
対話やプレゼン等、多様なリスニング材料
リスニング問題
* リスニング設備の不足も

Speakingについて
ペアワーク（対話）、グループワーク（ロールプレイ）
* スピーキング練習なかった

〈市民〉

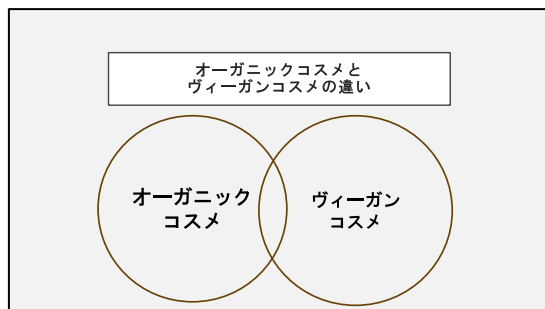
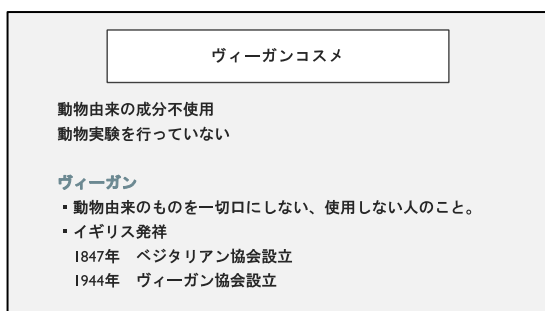
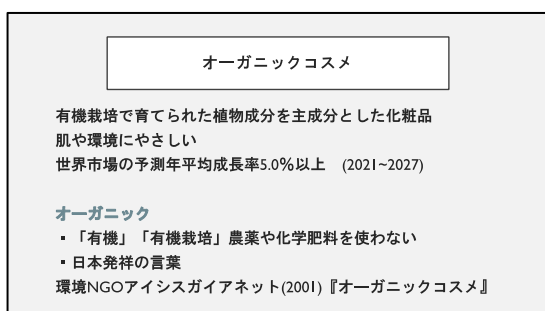
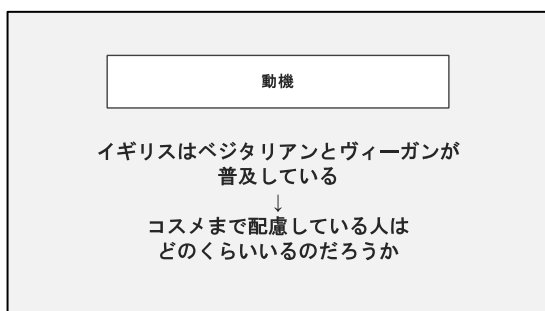
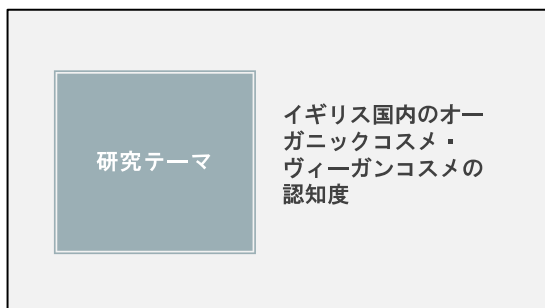
教員の効果性について（良く教えてくれたか？）

優しい、熱心、指導が合っていた
コミュニケーション重視→言語スキル向上を実感
必要に応じた、難しすぎないタスク

年配の教員→文法等が合わなかった

- Reading aloud に関して。単なるテキストの暗記を目的としているのならば効果性は薄いという声もあった一方、単語や文法の吸収といった観点からは効果が期待できるという意見も見られた。複数人に共通して、イメージを使用した手法が評価されていた。会話背景の意識と捉えられたか。
- 市民向けのアンケートに対する回答。
（中等教育での外国語学習経験について）ライティングについて、授業では文構造や品詞の理解、ライティングアクティビティといった日本とあまり相違ない活動があったとの回答。読むことに関しても同様、読解問題や文章分析を通して読解力を身につけたとの回答がほとんど。日本の英語科授業と類似。
- ユニークな回答として、「昔は聞く・話すことについての活動がなかった」というものがあつた。設備の不十分が理由としてあげられていたが、加えてまだ当時あまり重要視されていなかった技能であるということが考えられる。
- 教員の効果性については大半がポジティブな回答であったが、一つ不満として世代間の文法の違いが学習に影響を及ぼした、との回答。日本の語学教育にはあまり見られない問題点だと感じた上、海外の語学教育を扱う際の新たな観点を得ることができた。

3. 久野 華子



・「イギリス国内のオーガニックコスメ・ヴィーガンコスメの認知度」というテーマをたて、文献調査、アンケート調査の両方を行った。

・サマーコースでの調査で、イギリス国内のベジタリアン・ヴィーガンの普及率の高さを知り、コスメまで配慮している人がどのくらいいるのかに興味を持った。

・環境への配慮から、オーガニックコスメへの関心が高まっており、2021年から2027年にかけての世界市場の予測平均成長率は5.0%以上とされている。オーガニックは日本発祥の言葉で、2001年、環境NGO アイシスガイアネットによって刊行された『オーガニックコスメ』という書籍で使用されたのが始まりである。

・ヴィーガンはイギリス発祥の言葉であり、動物由来のものを一切口にしない、および使用しない人のことを指す。1944年、ドナルド・ヴィーガンによってヴィーガン協会が設立された。

・オーガニックコスメとヴィーガンコスメは混同されやすいが、全く別のものである。両者の条件を満たしている化粧品もある。

イギリス人のオーガニック・ヴィーガンコスメへの関心

- ・イギリス人の5人に2人強（41%）が使用する化粧品のラベルをチェック（Mintel, 2009）
- ・消費者の50%が天然成分由来の化粧品を支持。ヨーロッパで一位（Mintel, 2018）
- ・イギリス総人口の1.16%の60万人がヴィーガン（2018）

- ・イギリス人はオーガニック・ヴィーガンコスメへの関心が高いということが様々な調査で明らかになっている。また、イギリス総人口の 1.16%がヴィーガンであり、ヨーロッパで最も多い。

調査

インタビュー

- ・ジェンダー
- ・年齢
- ・国籍
- ・イギリスに住んでいる期間
- ・オーガニックコスメまたはヴィーガンコスメを知っているか
- ・利用したことはあるか
- ・その理由

ドラッグストア

オーガニックコスメやヴィーガンコスメがどの程度売られているのか

- ・街頭でのインタビューでは、オーガニック・ヴィーガンコスメの認知度を主に調査した。回答者の国籍だけでなく、イギリス在住期間を考慮した。ドラッグストアでは、5か所のドラッグストアで、どの程度売られているのかを調査した。

調査結果

オーガニック、ヴィーガンコスメを知っていますか 調査人数15人 若い女性

はい

8人

いいえ

7人

8人中7人が使ったことがあると回答

- ・過半数の回答者がオーガニック、ヴィーガンコスメを知っていた。また、知っている人のうち約9割が使用したことがあると回答した。

はい

年齢

16-25 7人

26-35 1人

国籍

イギリス 6人

ロシア 1人

アメリカ 1人

理由

・敏感肌

・肌の健康のために

・興味があったから

・製品の質が良いから

・倫理的な理由

- ・はいと答えた人の年齢は、若い年齢層が多かった。国籍はイギリスが最も多かった。理由は色々だったが、敏感肌、肌の健康という理由が多かった。

いいえ

年齢

16-25 5人

26-35 2人

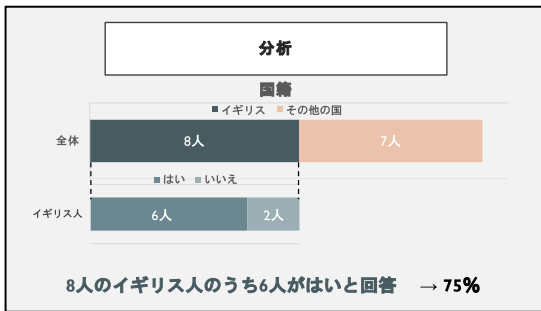
国籍

イギリス 2人

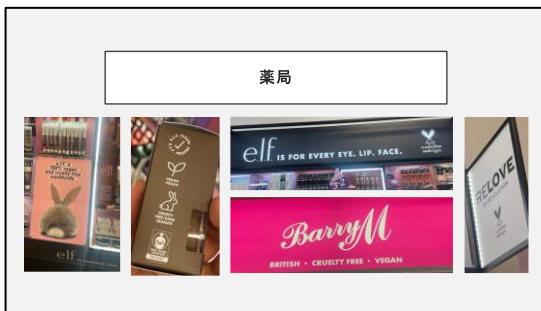
イタリア 3人

オーストラリア 2人

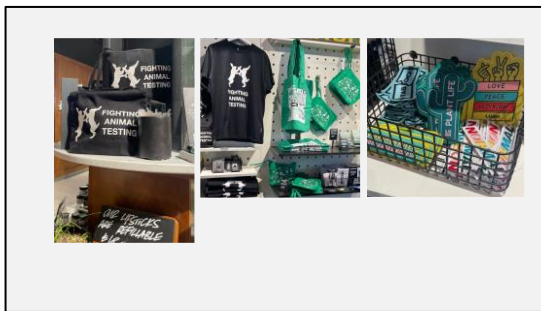
- ・オーガニック・ヴィーガンコスメを知らないと回答した人のうち、約7割がイギリス以外の国籍だった。



- 回答者の国籍はイギリスとその他の国で約半数ずつだった。その8人のイギリス人のうち6人がはいと回答した。つまり、イギリス人の回答者のうち75%がはいと回答したことになる。このことから、イギリス人は他国と比べて認知度が高いと言えるのではないか。



- 現地で5店舗の薬局に行き、化粧品売り場を調査した。4店舗のドラッグストアにヴィーガンの製品が置いてあった。また、ヴィーガンのマークにうさぎが使われていることが多かった。



- LUSH は動物実験反対を訴えており、LUSH の製品はすべて動物実験が行われていない。LUSH の本店には、動物実験反対と書かれたTシャツやポーチ、ステッカーなどの製品が売られていた。

- Elf
- BarryM
- RELOVE
- Lush

- 以上の4つは、イギリスのドラッグストアでよく見かけたヴィーガンコスメやオーガニックコスメのブランドである。

今後の見通し

ドラッグストアで見つけた4つのメーカーについて調査

日本のメーカーでオーガニックコスメ、ヴィーガンコスメを販売しているメーカーを調査

日本での認知度を調査してイギリスと比較

- ドラッグストアで見つけた4つのメーカーについて詳しく調査し、日本のメーカーでオーガニックコスメ、ヴィーガンコスメを販売しているメーカーを詳しく調べたい。また、日本でもアンケート調査を実施し、日本での認知度を調査してイギリスと比較する。

4. 佐々木 ひいろ



事前研究 キーワード

- ネイティブスピーカリズム
英語教育で規範とされる英語は、アメリカ英語、イギリス英語などのネイティブスピーカーの英語ばかり
- 英語帝国主義
英語が政治、経済、教育などさまざまな面で他言語よりも優先されること

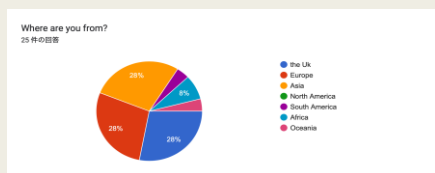
日本の英語帝国主義とネイティブスピーカリズム

- 大学受験や就職活動
 - ALTの先生たちはほとんどがアメリカ人やイギリス人などのアングロサクソン系
- 英語を通じた文化のアメリカ化の懸念 (津田, 2006; 行森, 2014)

調査の内容

- 調査方法: インタビュー
- 場所: ロンドン、オックスフォードの街中の公園
- インタビュー対象: イギリスに住む人々、出身・年齢問わず

出身地



・今回の調査では世界中の多様な英語のあり方についてイギリス人がどのように受け入れているのかを調査した。このテーマにした動機は、世界中で多様に使われている英語を母語として使う人たちは、自分たちの使う英語以外の種類の英語をどのように俯瞰しているのかに関心を抱いたことである。

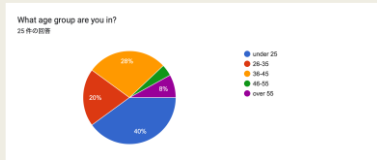
・事前研究では人々の一般的な英語に対する考えについて調査した。ネイティブスピーカーの英語は、他種の英語よりも優位に考えられる傾向にある。また、様々な場面での共通語はほとんどが英語であり、アングロサクソンの価値観のみがその場において主導権を握ることが懸念されている。

・日本では大学受験や就職活動などで高い英語能力が他要素よりも高評価され英語帝国主義の傾向が見られる。また日本の学校で雇用される ALT の多くをアメリカ、イギリス、オーストラリアから来たネイティブスピーカーが多くを占め教育現場でもネイティブスピーカーの英語に価値を置いていることがわかる。

・ロンドン、オックスフォードでイギリスに住む人々を対象にインタビューを行った。公園でくつろいでいる人たちはインタビューに快く応じてくれる傾向にあった。

・様々な出身地の人にインタビューをした。イギリスに存在する英語の種類が多様だということがわかる。

年齢



質問 1 どのタイプの英語をESLの人たちは学校で学ぶべきですか？

L1—母語が英語の人たちの英語 (ex: アメリカ英語、イギリス英語)

ESL—英語を第二言語として使う人たちの英語 (ex: インド、フィリピン、シンガポール)

EFL—英語を外国語として使う人たちの英語 (ex: 日本、中国、メキシコ)

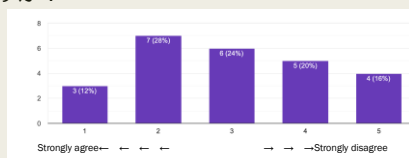
質問 1 の結果

- L1→64%
- EFL→1%
- ESL→24%
- なんでも良い→8%

質問 2 (EFL) の結果

- L1→75%
- EFL→8.3%
- ESL→8.3%
- なんでも良い→8.3%

質問 3 世界的な標準英語はあるべきだと思いますか？



・幅広い年齢層に声をかけた。年齢層によってその人が関わる英語の種類も変わる可能性があるため、対象の人々に年齢も聞いた。

・ネイティブスピーカリズムに傾倒している場合、L1 と答える傾向にあると仮定した。その他を答えた場合は、多様な英語の価値を理解し、それらを守るべきだという意識が強いのであろう。

・L1 と答えた人が半数以上だった。ネイティブスピーカーの英語が優位にあると考える人が多いということがわかる。なんでも良いと答えた人は、英語の種類に序列があるという意識がないのだろうと考察した。

・EFL の人々が習うべき英語の種類について。この結果においてもネイティブスピーカーの英語が優位にあると考える人が多いということがわかる。

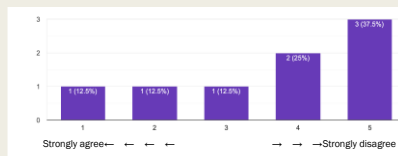
・英語の多様化、英語の標準化のどちらを推奨すべきかについて、人々の意識を問うためにこの質問を作った。標準化したほうが良いと答える人が若干多かった。

質問3 回答の理由

- 1、2 (agree) を選んだ人
 - 2.8% → アメリカ・イギリス英語
 - 他 → わからない、なんでも良い
- 4、5 (disagree) を選んだ人
 - それぞれの英語は違った特徴を持つべきである
 - 「ドンマイ」とか日本特有の英語表現がなくなるのは悲しい

- ・標準英語を定めるべきだと思う人には一定数アングロ・サクソン系の英語が優位だと考える人がいるが、70%以上が何でも良いと答えそれらの英語に過度な価値を見出してはいないとわかった。標準英語を定めるべきでないと感じた人は英語が更に多様であるべきということを主張していた。

質問4 イギリス英語において基準を設けるべきだと思いますか？



- ・英国内でもアクセントの違いが様々であり、イギリス英語における多様性についての意識を探る目的で英国出身の人々にこの質問をした。イギリス英語の標準化に否定的な人が多かった。

質問4 回答の理由

- 1、2 を選んだ人
 - 教育や政治の場面では標準を統一した方が良い
 - プライベートの場面では人それぞれ違っている
- 4、5 を選んだ人
 - 必要ない
 - アクセントによって相手をジャッジするのは良くない

- ・標準化すべきだと答えた人は公的な場面での基準を設立することで、平等な教育や政治に参加する機会の獲得に繋がると考えた。標準化を否定した人の中で、アクセントによって相手をジャッジするのは良くないと主張する人がいた。アクセントによって階級や教養がわかってしまい、差別されることがあるとのことだった。

分析

- 「アメリカ英語、イギリス英語が世界的な英語の基準である」という意識
- Agreeと答えた人の過半数の答え「理由はわからない」
→問題意識がない

今後の研究


- 英語の歴史
- 他国における英語の使用

- ・ 結果から、ある程度の割合で人々の中に「英米の英語が世界的な英語の標準である」という認識があるということがわかった。しかし、英米の英語を標準とすべきだと答えた人や英語の標準化に賛成と答えた人のほとんどがそう答えた理由はわからず、これは彼らにそもそも問題意識がないということを示しているのだろう。
- ・ 今回の調査で英米英語の歴史的価値が人々の意識に働きかけ、英米英語の標準化や優位化が起きているのではないかと考えた。英語の歴史や、どのような要素が働いているのかを理解する必要がある。また、英国外における英語の使用や英語に対する意識についても調査し、英語の立ち位置を捉えることも重要である。

5. 千明 瑚海

研究テーマ：ウィリアム・モリス

19世紀を代表するイギリスの芸術家、詩人、社会活動家



モリス商会
「生活に必要なものを美しくあるべき」
⇒アーツアンドクラフツ運動

職人の手仕事を重要視

19世紀の社会⇔中世

研究内容

- ① モリスの評価と背景
- ② デザインの人気度とその理由
- ③ デザイナーとしてのモリスに影響を与えたもの



①モリスの評価の変化と背景

存命中

- 詩人⇒『地上の楽園』（1868～70）が好評
- デザイナー⇒壁紙「デイジー」「フルーツ」の人気、アーツアンドクラフツ運動
- 社会主義活動家⇒反逆者（自身の立場との矛盾）



現在

- 『地上の楽園』＜『ギネヴィアの弁明』
- 近代デザインの父＝デザイナーとして評価
- 『ユートピアだより』（1890）⇒環境に優しい社会のビジョンを提示した
- アーツアンドクラフツ運動の矛盾、中世へのあこがれ
⇒現在までどのように変化してきたのか



・ウィリアム・モリスは19世紀のイギリスの芸術家、詩人、社会活動家だ。大量生産された商品の質の低下を危惧し、職人が手作業を行っていた中世に理想を見出した。モリスを研究テーマ選んだのは、よりよい社会のために奔走した彼の生涯を知ること、現代社会に活かせると思ったからだ。

・事前に想定していた研究内容を今回の調査でカバーすることは難しく、実際に有益な情報が得られたのは①と②だけだった。しかし①に関してはモリスの、評価の背景にどういったことが背景にあるのかまでは知ることができなかった。

・事前研究では、モリスの評価は時代の変化に伴って変化してきたことがわかった。現在、彼はデザイナーとして広く知られているが、存命中は詩人として名声を得ていた。また、社会主義活動家として講演も行なっていたが、中産階級で育ったにもかかわらず労働者階級の味方になり中産階級を批判したことで、周囲からは反逆者として疎まれていた。

・彼は詩人としての名声を得たが、現在ではほとんど知られていない。彼は職人の手で万人の生活に美をもたらすということを理想に掲げていたが、職人が作った商品は非常に高価で富裕層にしか手が届かなかったという点での矛盾や、当時の社会に対して中世に理想を見出したという非現実さが指摘されている。



②モリスのデザインが人気な理由

19世紀半ば 壁紙の需要の高まり+デザイン性⇒人気
なぜ現在も人気なのか

汎用性、多様な種類、親しみやすいモチーフ、配色、

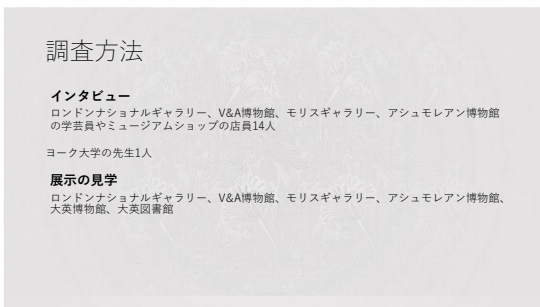


③デザイナーとしてのモリスに影響を与えたもの

学生時代：オックスフォードでの生活

⇒ジョン・ラスキン、中世の建築物、仲間との出会い

レッドハウス：自ら家具や内装をデザインし住んだ家



調査方法

インタビュー

ロンドンナショナルギャラリー、V&A博物館、モリスギャラリー、アシュモレアン博物館の学芸員やミュージアムショップの店員14人

ヨーク大学の先生1人

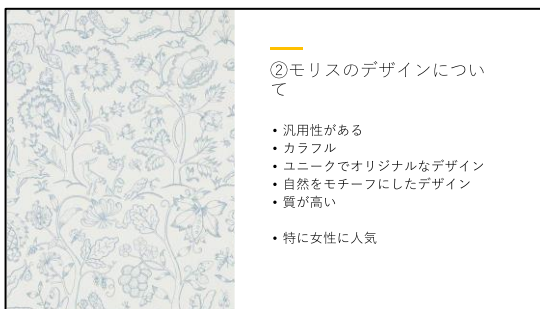
展示の見学

ロンドンナショナルギャラリー、V&A博物館、モリスギャラリー、アシュモレアン博物館、大英博物館、大英図書館



①イギリスでのモリスの評価

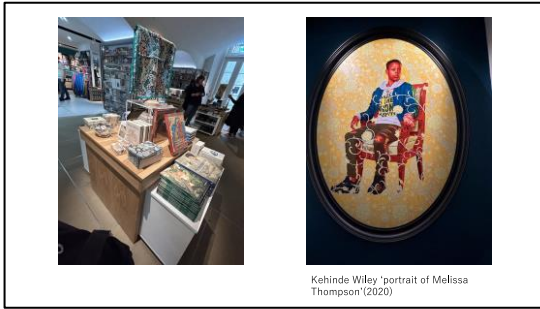
- ・15人中12人⇒高評価
- ・今でもデザインが様々なものに使われている⇒**芸術へ与えた影響大**
- ・**デザイナー**>社会活動家>詩人



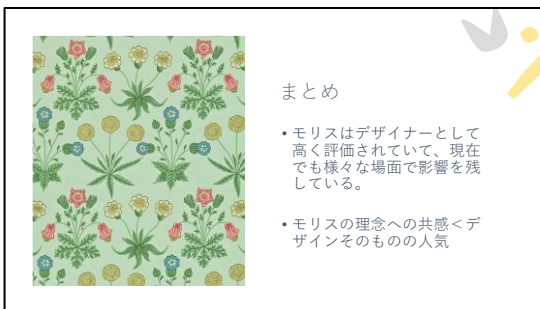
②モリスのデザインについて

- ・汎用性がある
- ・カラフル
- ・ユニークでオリジナルなデザイン
- ・自然をモチーフにしたデザイン
- ・質が高い
- ・特に女性に人気

- ・モリスのデザインが人気な理由も調査し
いと考えた。それは、彼が現在デザイナー
として評価されている理由にも繋がるの
ではないかと考えたからだ。
- ・事前調査からデザイナーとしてのモリス
に影響を与えたものには、オックスフォ
ードでの学生生活で師匠となるラスキン
や商会を設立する仲間と出会ったことだ
と推測した。また中世の建築物が多く、
『ユートピアだより』などに見られる中
世への憧れが強まった場所であった。し
かし訪問を予定していた施設のほとんど
に行くことができなかった。
- ・博物館や美術館でのインタビューでは美
術に通じている人は全員モリスのことを
よく知っているが、そうでない人は名前
も知らないこともあった。大英博物館と
大英図書館には話を聞けそうな人がいな
かったため見学のみ行った。
- ・モリスの評価については、15人中12人
が高評価で、「イギリス人で知らない人は
いない」と答える人もいた。芸術家以外の
活動がどれだけ知られているか、という
質問については、その他の活動はほぼ知
られていないが、社会活動家の方が詩人
としてよりも知られている、と返答をも
らった。また、ヨーク大学の美術の先生に
よると、著作物に関してはモリスよりも
ラスキンの方が読まれているという。
- ・V&A 博物館のミュージアムショップでモ
リスのグッズが多く販売されているの
を見てインタビューに適していると考え、
ショップ店員にも話を聞くことにした。
モリスのグッズはよく売れていて、特に
40~50代女性に人気だとわかった。



- ・展示物や博物館内を見て印象的だったのは、モリス関連のグッズがミュージアムショップの目立つところに展開されていたことだ。左の写真はアシュモレアン博物館内のショップで入ってすぐのところに展開されていたモリスグッズたち。博物館の展示にモリスが携わったものはほとんどなかったが、グッズを販売しているのはそれだけ需要があるということなのだろう。右は、ケヒンデ・ワイリーというアメリカのアーティストの2020年の作品である。背景がモリスのデザインになっていて、植物が椅子に座っている人物の身体に巻き付いている。モリスのデザインが現代のアーティストにもインスピレーションを与えていることがわかる。



- ・現地での調査を終えて、自分が思っていたよりもモリスの評価や人気が高くて驚いた。インタビューした人のなかにはモリスを専門に研究したことのある人もいたが、自分の英語力や知識が不足していたこともあり、詳しく話を聞くことができなかったことが反省点である。また、今日までモリスの評価がどのように変化してきたのかについては調査することができなかったため今後の課題としたい。

6. 中村 実優

事前調査

食べ物と社会問題

- ・ 企業努力
- ・ 消費者の意識
- ・ 歴史



- ・ 事前調査は、イギリスにおける食べ物と社会問題についてであった。特にイギリスではフェアトレードが日本よりも盛んに行われていることに注目した。また、企業努力や消費者意識、歴史について調べた。

イギリスのミュージアム

- ・ 国立のミュージアムなど、多くのミュージアムが無料
- ・ 子ども連れが多い
- ・ 子どもが楽しめる工夫
- ・ 来館者の様子

- ・ しかし実際にイギリスに行って、美術館のあり方の違いについて興味移ったので、イギリスではミュージアムについて調べた。日本のミュージアムとはいくつか異なる点が見られた。



- ・ 左→ヨーク美術館
- ・ 真ん中→ナショナルミュージアム
- ・ 右→ゴッホの絵（ナショナルミュージアム）



- ・ どちらも大英博物館
- ・ 左→モアイ像
- ・ 右→ミイラたち

現地調査

- ・インタビュー内容
 - 国籍
 - 年齢
 - イギリスに住んでいる年数
 - ジェンダー
 - ミュージアムに行く頻度
 - 誰とミュージアムに行くか
 - ミュージアムは子ども連れが行くのに適した場所か
 - すべてのミュージアムは無料になるべきか

- ・現地調査はインタビューを行った。年齢や性別が偏らないようにインタビューすることに気がつけた。20人程に公園などでインタビューを行うことが出来た。

結果

- ・誰とミュージアムに行くか
友人、家族、パートナー
- ・ミュージアムは子ども連れに適していると思うか
一人を除いて全員yesと答える
 - ・教育に良い
 - ・子どもとの良いコミュニケーションの機会になる
 - ・子どもが楽しめるスペース、アクティビティがある

- ・インタビューの結果、ほとんどの人がミュージアムによく行くと答えた。ミュージアムと子どもについての質問では、すべての人がミュージアムに行くことは、子どもに良い影響を与えると答えた。イギリスには多国籍の人々が暮らしており、イギリス人だと思って声をかけたが、違う国籍の人だったということが何度かあった。

結果

- ・すべてのミュージアムは無料になるべきか
 - ・20人中15人 賛成
 - もっと多くの人に来ることができる、教育は無料になるべき、文化にふれることはすべての人に平等であるべき
 - ・20人中5人 反対
 - 寄付では経営に足りない、スタッフへの給料(良くミュージアムに行く人ほど反対)

- ・ミュージアムによく行く人ほど、ミュージアムが無料になるべきか分からない、反対と答えたのが印象的だった。ミュージアムが存在するためには、来館者からお金をとるべきだという意見があった。

今後の展望


- ・日英のミュージアムのあり方の違い
- ・ミュージアムが無料であるべきかについて多方面の意見

- ・ミュージアムが無料であるべきかについて、日本とイギリスのミュージアム経営の歴史を学び、無料であることのメリットとデメリットを明らかにして、もう一度調べる必要がある。

7. 宮川 奈那美

研究テーマ

イギリスにおける喫茶文化の変遷と社交手段としての紅茶



事前調査

- ・ペニー先生へのインタビューから
 - ・イギリス人は紅茶を飲む時間を大切にしているか？
→グループによる、お年寄り重視している
 - ・紅茶を飲む場は社交場として考えられているか？
→そう。しかし友人や家族たちと話す場であって見知らぬ人と話す場ではない
 - ・ティールームはコーヒーショップよりもフォーマルな場、郊外に多い

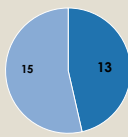
問い

- ・イギリス人にとっての紅茶とは？
- ・紅茶の社会的重要性

→インタビュー、実地調査

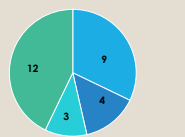
地元住民へのインタビュー

性別 (n=28)

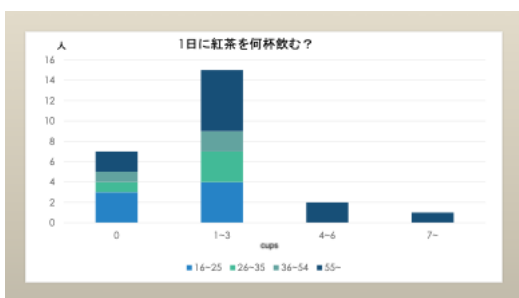


■ 男性 ■ 女性

年齢



■ 16-25 ■ 26-35 ■ 36-55 ■ 55以上



・研究テーマとして「イギリスにおける喫茶文化の変遷と社交手段としての紅茶」を設定した。喫茶文化の変遷は文献調査でも進められると考え、フィールドワークでは社交手段としての紅茶に焦点を当て調査をした。

・事前調査でペニー先生にインタビューし、年配の方は紅茶を好み、紅茶を飲む時間を重視しているが、若者は紅茶よりもコーヒーの方を好む傾向があると判明した。またティールームとコーヒーショップの間にも雰囲気の違いがあると伺った。

・事前調査を踏まえ、FWではイギリス人にとっての紅茶とは何かについて調査し、紅茶の社会的重要性を解き明かしたいと考えた。研究方法として、ティールームなどの実地調査に加え、地元住民やティーショップへのインタビューを行い、イギリスの紅茶事情を探った。

・地元住民へのインタビューはヨーク、ロンドン、オックスフォードの3箇所で行い28人の方にアンケートを取った。男女比は1対1、年齢は16-25歳が9人、55歳以上が12人と偏りが生じてしまった。

・全世代で一日に一杯も飲まないという人がいるということに驚いた。また40代以下が1日に3杯以下であるのに対し、55歳以上は4杯以上という回答が多く、特に年配の方ほど紅茶を日常的に摂取していた。最大値は1日に11杯(70代)だった。

分析と考察

- ・年齢が上がるにつれて1日の紅茶摂取量は増加
- ・若者の紅茶摂取量は少なめ

- ・目的
リラックス、会話→習慣
→社交手段



ティーショップでのインタビュー

- ・紅茶と階級
労働者階級 ティーバッグ、アールグレイ
中産階級 高級茶葉
→共通認識

- ・トレンド
ティーバッグの購入数↑、茶葉↓
安い茶葉（スーパー）への移行



アフタヌーンティー



The wolseley

- ・観光客と地元住民が手々
観光客：カジュアル
地元民：フォーマル
- ・それぞれ談笑が弾み、店内は賑やか
・店員さんが積極的に話しかけてくれる

まとめ

イギリス人にとっての紅茶

- ① 会話を楽しむための手段
- ② リラックス
- ③ 単なる習慣

紅茶の社会的重要性

- ① 階級
- ② 社交手段
- ③ 伝統かつ習慣

今後の展望

- ・喫茶文化の変遷
- ・コーヒーショップの増加と紅茶消費量
- ・階級と紅茶

・以上のインタビュー調査から年齢と紅茶の摂取量には関係性があると分析した。また、紅茶を飲む際に親しい人との会話を楽しんでいると回答した人が7割ほどであり、紅茶は社交手段であると考えられる。一方で「紅茶を飲むことは単なる習慣であり特に意味はない」と答える人も一定数いた。

・フォートナム&メイソンというイギリスの老舗高級紅茶店とオックスフォードの小さな茶葉店でインタビューをした。の店舗でも紅茶と階級には関係性があると言っていて、ちょっと話しくそうに喋ってくれたのが印象的であった。

・The Wolseley という歴史あるレストランでアフタヌーンティーをいただいた。どのテーブルでも日本では見られないほど会話が弾んでおり、アフタヌーンティーは他者との関わりを楽しむ手段であると分析した。

・イギリス人にとって紅茶は会話を楽しむ手段でもあるが、一部の人にとっては単なる習慣であるとわかった。また、階級によって飲む茶葉の種類も異なることから、喫茶文化は階級と結びついて成立していると考察される。

・今後は文献で喫茶文化の変遷を追いながら、コーヒーの消費量の増加や階級と紅茶の繋がりに焦点を当てて研究を進めたい。また、日本のアフタヌーンティーなど海外でのイギリス文化の受容についても知見を広げていきたい。

8. 猪瀬 文彌

Traffic Situation in England

210034 Fumiya Inose

Basic traffic rules

- All vehicles should go left side
- Traffic lights have 4 patterns
Red and amber means "ready to go"
- A lot of roundabout
140 roundabouts in Japan
10000 roundabouts in England



About Drivers License

- There is no driving school in the UK
- People can drive the public road even the first time
- People learn how to drive by hiring driving teacher
- MT is major in the UK
- Any people can drive
 - ✓ Older than 17 years old
 - ✓ Attaching learners sign
 - ✓ With someone more than 21 and 3 years of driving experience



Research Point

The types of car show the car situation and trend

- Sedan (saloon)
- Coupe
- Wagon
- Cross country SUV
- SUV
- Van
- Classic, Historic

How to research

Observe the cars in the road and count the types of cars.

・日本が法整備をする際にイギリスを参考にしたため、交通ルールは基本的に同じ。異なる点として代表的なのは信号のパターン。赤と黄色の同時点灯は「発進の準備をせよ」という意味。

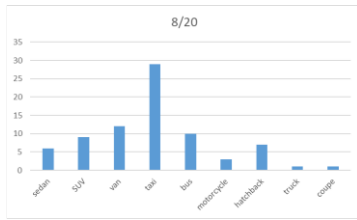
・免許を取得するまでの過程は大きく異なる。日本のような自動車学校は無く、指導員が公道で教習を行う。その際の教習車のほとんどが MT ためイギリスでは MT が主流である。17 歳以上であれば誰でも、ラーナーズマークを取り付け、21 歳以上かつ 3 年以上の運転歴がある人を同乗させれば公道を運転できる。

・現代では様々なタイプの車が存在し、その比率は流行によって大きく変化する。最近の日本ではアウトドアブームや利便性から SUV やステーションワゴンが好まれる傾向にある。

・ロンドンの中心部で 3 日間、通行車両を観測し分類した。

Results

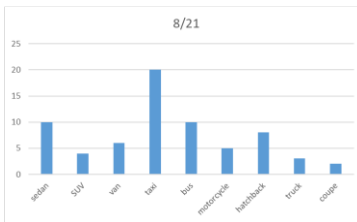
2023/08/20(Sunday)



- ・ 日曜

Results

2023/08/21(Monday)



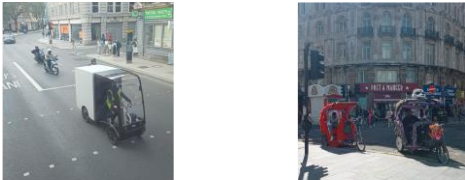
- ・ 月曜

Result

- ・ Through those three days, taxi was the most observed.
- ・ In each day, bus was observed for about 10 times.
- ・ Sedan can be the most popular style as a private car

- ・ 最頻値はタクシー。観光地であり都市部であることを考慮すると当然。バスも安定して多く利用されていることがわかる。車種としてはセダンが最も多かった。これも都市部であるということで説明がつく。大きな荷物を運ぶ機会が少なく、セダンならば狭い駐車場も利用しやすいのだろう。加えて都心部において車で移動する人は一定以上の資産や地位があると予測でき、その場合安全性が高いセダンを用いるのが妥当であると考えられる。

Other findings



New style of transportation was observed in London.
The left one is electrical assisted bicycle to carry the luggage in the narrow street. The right one is kind of taxi. Those bikes are decollated and playing music loudly.

- ・ ロンドンでは公共交通機関が発展しておりタクシーの需要も大きい。公共交通機関でクレジットカードのタッチ決済を利用できる点は公共交通機関の満足度に影響を与えているのではないかと考えられる。

Consideration

- ・ In the central area of London, the public transportation is developed enough.
- ・ There is a huge demand for the taxi.
- ・ I could not find the affection of congestion charge
- ・ The fact that we can use credit card to take the train or bus has positive effect on the sufficiency of transportation.

- ・ 小型のモビリティが散見された。左の車両は荷物の配送に使われており、細い道で小回りが利き、電気自動車のため騒音もない。発進と停止を繰り返すような使い方の場合、EVのほうが利便性は高いだろう。右は人力のタクシーのようなもの。

10. 武智 雄大

グラフィティアート

武智雄大

ロンドンはグラフィティアート発祥の地

• 1970年代 - 1980年代

ロンドンのグラフィティアートの起源は、1970年代から1980年代にかけての地下鉄車両の書き込みに遡る

• 1990年代グラフィティアートが現代美術の一部として認められるように

• 2000年代以降

• ロンドンはグラフィティアートの中心地として、ますます注目されるようになる。



- 研究課題はイギリス、特にロンドンでグラフィティアートを描く人間の生活環境やそのこだわりであるが、本プレゼンテーションではイングランド各地に存在するグラフィティの名所を紹介する。
- 1960年代にフィラデルフィアやニューヨークのギャングスタの間でタギングがその街の仲間の動向を探るための手段として流行した。その後、その違法性が魅力を増大させファンを増加させたことで、アンダーグラウンドだけではなく表の世界でも芸術として認められるようになり、その波はロンドンにも到達した。
- Shoreditchはロンドン東部に位置する。クリエイティブな雰囲気で見られ、グラフィティやストリートアートが有名である。世界中から訪れるアーティストたちが街をキャンバスにし、多岐にわたるスタイルの作品を残している。社会的なメッセージから純粋に芸術的な作品まで様々である。この地域は、ブリック・レーンを中心に、その周辺の道路や小道にも多くの作品が見られる。アーティストたちはShoreditchを定期的に訪れ、新しい作品を残すため、街の風景は絶えず変化している。Banksyをはじめとする世界的に有名なストリートアーティストの作品も見られ、地元の才能豊かなアーティストたちによる素晴らしい作品も多い。Shoreditchのグラフィティやストリートアートは、ロンドンの文化的な多様性と創造性を象徴するものとして、多くの人々に愛されている。



- Leake Street Tunnelはロンドンのウォータールー駅近くに位置する。有名なグラフィティのスポットであり、ストリートアートとグラフィティの合法的なキャンバスとして知られている。多様なスタイルと技法を持つアーティストたちによって絶えず変化し続けるアートワークで飾られている。このトンネルの特徴は、その合法性にある。多くの場所でグラフィティは違法とされているが、Leake Street Tunnelではアーティストたちが自由に作品を描くことが認められている。このため、新進気鋭のアーティストから世界的に有名なアーティストまで、幅広い層が自己表現の場として利用している。2008年に開催された「Cans Festival」によって広く知られるようになった。このイベントは、ストリートアートの巨匠Banksyが主導したもので、国際的なアーティストたちが集まり、トンネルをアートでいっぱいにした。それ以来、Leake Street Tunnelはロンドンのストリートアートシーンの中心地の一つとしての地位を確立した。訪れる人々は、壁一面に描かれた壮大な壁画や、社会的なメッセージを込めた作品、抽象的なデザインなど、さまざまなアートワークを鑑賞できる。また、このトンネルはアートイベントや写真撮影の場所としても人気がある。



- Camdenはロンドン北部に位置し、その独特の文化と市場で知られている。この地区は、グラフィティとストリートアートにおいても独自の地位を確立している。壁画やグラフィティは、Camdenの街角や路地、商業施設の壁に広がっている。Camdenのグラフィティは、社会的、政治的なメッセージを含めた作品から、純粋に美的な魅力を追求した作品まで多岐にわたる。多様なアーティストたちがこの地区を訪れ、彼らの創造性を表現している。その結果、Camdenはロンドンのストリートアートシーンにおける重要な拠点の一つとなっている。



- Hackney Wick のグラフィティとストリートアートは、この地域のアイデンティティの一部となっており、街を訪れる人々に強い印象を与える。アートは、Hackney Wick の歴史と現在をつなぐ架け橋として機能し、地域社会のコミュニケーションと絆を深める役割を果たしている。この地区は、アートと文化の探求者にとって魅力的な目的地であり続けている。

11. 藤巻 結衣

個人研究
イギリスで芸術文化を学ぶ

210223 藤巻結衣

研究テーマ

- 日本とイギリス(ヨーロッパ)の演劇文化および芸術文化の違いは何か、イギリス特有の芸術文化は何なのか

到達目標

- イギリス(ヨーロッパ)の演劇文化および芸術文化を理解すること
- 日本との違いを見つけること
- 幅広い「芸術作品」について知識を深め、自分なりの考えを持てるようになること

調査方法

- イギリスで演劇作品を鑑賞し、作品自体はもちろん、役者の演技方や演出方法などを学ぶ
- 劇場の雰囲気や観に来ている人についても注目し、余裕があれば話しかけてみる
- 博物館や図書館で様々なアート作品や文献を見て、日本ではなかなか見ないものやイギリスの独占資料などがなければ、施設の方にも話を聞いてみる

調査内容(概要)

- グループ座で『お気に召すまま』を鑑賞、ガイドツアーにも参加
- ソンドハイム劇場で『レ・ミゼラブル』を鑑賞
- ヴィクトリア・アルバート博物館で舞台芸術作品のコーナーを鑑賞
- ウエストン図書館で特別コレクションを鑑賞
- ヒズ・マジェスティーズ劇場で『オペラ座の怪人』を鑑賞
- カウンティ・ホールで『検察側の証人』を鑑賞

- ゼミで演劇文化論について学んでいることから、日本とイギリスの演劇文化の違いにとどまらず、芸術文化という1つの大きなジャンルとしても比較などをしてみたいと感じた。もともと自分自身絵画や建築物、音楽など幅広く「芸術」に関心があり、美術や音楽に関する講義を受けたり美術展やコンサートなどに足を運んだりする機会が多かったことも、この研究テーマを設定した理由の1つといえる。
- ブロードウェイと並ぶ大規模な劇場街・ウエストエンドや、世界有数のデザインの博物館・V&A博物館などで有名なイギリスでは、どのような演劇文化や芸術文化が根付いているか、日本との違いを比較したいと考えた。また様々な芸術作品を見ることで、より作品に対して多様な考え方や感じ方ができるようになるのではないかと考え、到達目標とした。
- 当初予定していたナショナル・ギャラリーやアシュモレアン博物館などに行くことはできたが、時間や作品数の関係で、アート作品については割愛する。演劇作品については、表現方法や演出の仕方に国や地域の文化が反映されているのではないかと考えた。観劇者や施設の人など、実際に現地にいる人の声は貴重であり、新たな情報を得られる可能性も高いといえる。
- 『オペラ座の怪人』と『検察側の証人』は滞在中に観劇を決めたため事前調査をしていなかったが、多くの気付きや学びがあったので、結果として述べる。

調査内容 1 : グローブ座

- 『お気に召すまま』(8/19 19:30~、8/20 18:30~、8/22 19:30~)
- グローブ座の歴史などについて学べるガイドツアーは滞在中全日程で行われ、おおよそ10時から16時の時間帯から選べる
- ①以上の催しに参加しつつ、演劇作品については役者の表情や動き方、舞台の演出の仕方に注目し他のお客さんの様子も見て、ガイドツアーではシェイクスピアに関してなど、知りたいことがあれば聞いてみる



調査内容 2 : ソンドハイム劇場

- 『レ・ミゼラブル』は基本的に日曜日以外は上演されており、滞在中は8/19のみ14:30と19:30の公演があって、8/21、22は19:30の公演がある
- ⇒基本的にグローブ座と調査方法は同じだが、なぜこの劇場では『レ・ミゼラブル』を長い間上演し続けているのかなどについて聞いてみたい



調査内容 3 : V & A 博物館

- どのカテゴリーの展示品もチェックするつもりだが、特にシアター&パフォーマンスコレクションを重点的に見たい
- ⇒紙とペンを持って行き、気づいたことなど適宜メモをとるようにする
- ⇒気になる作品があれば施設の人に詳しく聞いてみる



調査内容 4 : ウェストン図書館

- 特別コレクションを鑑賞する
- ほぼ毎日行われているいくつかのガイドツアーのうち、時間が長すぎず料金が高すぎないものなどを選んで参加する
- ⇒ツアーには予約が必要だが、大学のホームページから予約できる



調査結果 1 : グローブ座

- 『お気に召すまま』
⇒劇が始まる前に演者たちが自ら観客に作品にちなんだ花を手渡ししたり、劇中に観客席の様々なところから突然登場したりなど、観客との距離感が非常に近かった
ex)劇中に、立見席で最前列にいた観客のうち、1人の帽子を取って使用するというユニークさも
感じた点⇒観客に触れると思えば秀でた魅惑の距離で演技することは、ある意味観客に大きな距離を置いているという点も面白かった
結核式のシーンでBruno Marsの『Marry You』を演者みんなで歌うという柔軟性
感じた点⇒原作はシェイクスピア、そして歴史あるグローブ座での公演ならば、古くから同じような演出の仕方を受け継いでいるのではないかと考えていたが、時代に呼応することで若い世代にも興味を持ってもらえるよう工夫しているのかもしれないと思った



・同時期に『マクベス』の上演もあったのだが、滞在中に観られる日が1日のみであり、チケットが早いうちに売り切れてしまったことから、断念した。演劇、そしてイギリスと来ればシェイクスピアは外せない。ぜひともグローブ座という地でシェイクスピアを感じたいと考えた。

・「ウエストエンド」と聞いてこの写真のような光景を思い浮かべる人は多いのではないか。私もそのうちの1人だ。ウエストエンドの「顔」ともいえるこの劇場で上演され続けている、『レ・ミゼラブル』を鑑賞することにより、イギリスの演劇文化を学べると考えた。

・シアター&パフォーマンスコレクションでは衣装など舞台に関する多くの資料を近くで見られるため、学びが大いにあったと感じた。ゼミで扱った作品や日本で鑑賞した作品など、自分と関わりの深い作品があれば特に詳しく知りたいと思った。

・特別コレクションの展示の中にはシェイクスピア関連のものもあるということで、何か手がかりとなるものがあるはずだと考えた。オックスフォードでどれほどの時間が取れるのか、細かい予定がまだ決まっておらずわからなかったため、あまり時間の長いガイドツアーだと行きたいところを回りきれないと思った。

・観客席の思わぬところから演者が登場するということが劇中何度もあった。また幕間にりんごが無償で提供されるなど、作品とマッチしたユニークな心遣いが見えた。そして演奏者の中に私たちと同年代の青年がおり、若くしてグローブ座で演奏できる実力の高さに感心した。

調査結果 1 : グローブ座

- ・ガイドツアー
⇒シェイクスピアの言葉は難しいため、俳優がアイコンタクトや身振り手振りを大げさなくらいにやることで、話を観客にわかりやすくしていたらしい
⇒グローブ座の舞台の天井は天国をイメージしている
⇒ツアー終了後、ガイドの方にシェイクスピアはイギリスで人気かどうか聞いてみたところ、「もちろん！イギリス人はみんな好きだよ。教育のカリキュラムにも組み込まれているしね」とのことだった
感じたこと⇒英語が早くて聞き取れない箇所も多かったが、やはりイギリス人からしてもシェイクスピアの言葉は難しく、しかし時代を超えて愛され続けているということがわかって良かった

調査結果 2 : ソンドハイム劇場

- ・『レ・ミゼラブル』
⇒国語も年齢も様々な人が来ており、友人と遊びに来たというような、ラフな感覚で来ている人が多いように見受けられた
⇒劇場の装飾、音響、舞台の転換など、劇を盛り上げるあらゆる演出が全て本格的
⇒多くの人が食べたり飲んだりしながら鑑賞しており、映画館のようだった
⇒映画版『レ・ミゼラブル』よりも登場人物のディテールが非常にコミカルで、悪者ながら憎めないような部分があった
感じたこと⇒演者が取っ手終わった後に拍手だけでなく歓声が上がると、やはり多くの人がこの有名な作品を楽しみにして劇に来ていることが伝わってきて、また演劇と人々の距離が近く、劇場側も観客側も舞台を楽しんでほしい、楽しみたいという工夫や雰囲気があった素晴らしい

調査結果 3 : V & A 博物館

- ・シアター&パフォーマンスコレクション
⇒1990年頃から演劇が登場し始め、1700年頃からはオペラが祝宴の際に披露されるようになったことがわかった
⇒「誰かの人生のメロディーと演劇は観衆に大きな力を与える」という言葉
⇒ミュージカルは真実を効率的に、強いメッセージとして人々に伝える力がある
⇒博物館内の他のセクションとは違って、劇場内のような暖い照明に、煌びやかな衣装や当時の演劇のポスターなどが展示されており、実際の上演映像も流れている
感じたこと⇒やはり自分のイメージするミュージカルのルーツはイギリスにあるとも言え、社会や政治的な側面に言葉で触れることが難しい時代でも、華やかなショーを通して戦争や人種差別などの時代背景を伝えるという力もあつたのだと思った

調査結果 4 : ウェストン図書館

- ・特別コレクションのみ鑑賞
⇒お気に召すままのシェイクスピアの初版が展示されていて、舞台を覗いたためどのような場面かはわかったが、今の時代には見られない造語のような英語がいくつかあった
⇒後から来たガイドツアーの参加者と思われる人たちにガイドの方が「これはシェイクスピアの有名な初版です」と説明していて、参加者たちはそれを聞くとその初版を見て写真などを撮っていた
感じたこと⇒初版を見ることにより、造語のようなものがシェイクスピア英語と呼ばれるものなのかもしれないと考えた。また同じ展示スペースには他にも様々な資料があったのにも関わらず、ガイドの方は真っ先にシェイクスピアの初版について言及しており、それほどどの国の人々からも関心の高い人物なのだと感じた。

調査結果 5 : ヒズ・マジステイズ劇場

- ・『オペラ座の怪人』
⇒自分としては、今まで観てきた舞台の中で最も演出が豪華で本格的
⇒観客の中にはアジア人も多く見受けられた
⇒鏡や十字架の中から突然現れたり、最後のシーンで黒い布がぶつて次に布を取った時には姿が見えなくなっていたりなど、怪人によるマジックのような動きに驚いた
感じたこと⇒誰もが知っているテーマ曲を劇中で初めて生演奏で聴いて、どれほどインパクトが強いものなのかを実感した。またミュージカルの最高傑作とも言えるような、演者の歌声、生演奏、演出など全てにおいてクリエイターがとても高いと感じた
■パンフレットを販売していた女性に、ここはこの作品のための劇場なのか聞いてみると、やはりそうらしく、この作品が作られた時からずっと上演していると言われた

- ・実際、ガイドの人は早い英語で話しており聞き取るのが非常に難しかった。ただ質問した際は聞き取りやすい早さで話してくれたため、ほぼ理解できた。またガイドツアーではガイドの人がマイクを付け、参加者にはイヤフォン付きのオーディオ機器が手渡されることによって、ガイドの声が耳に直接届きやすくなっていた。
- ・事前調査では、イギリス人は受け身の者が多く、スタンディングオベーションは起こっても散発的であるという情報も目にしたが、この日はほぼ全員が立ち上がっていて、劇場はとても盛り上がっていた。インタビューに関して、あまり時間がなくこの日は質問できなかった。
- ・想像以上に展示物が多かったため、全てを見ることに精一杯で質問する時間はなかった。博物館の1つのコーナーというよりも、独立して舞台専門博物館としても成立するのではないかと思うほど、展示物は豊富で飽きることがないと感じた。
- ・行った時間とガイドツアーの時間が合わなかったため、ツアーには参加しなかった。数日前に『お気に召すまま』をグローブ座で鑑賞したばかりだったため、その初版を見ることができて感激した。
- ・『オペラ座の怪人』において1番の見せ場ともいえる、シャンデリアの落下シーンの演出が特に印象的だった。怪人の声に合わせて光ったり揺れたりして、落下の時はワイヤーのようなものを用いて急降下していき、観客の注目を集めていた。座席の後ろにはオペラグラスがついており、コインを入れれば使えるようになっていた。

調査結果 6：カウンティ・ホール

・『検察側の証人』

⇒劇場内は作品内容と合わせ、法廷のようになっており、舞台だけでなく客席もその一部となっていて、本当に裁判を傍聴しているような感覚になった

⇒日本での上演と比べると、演者の演技方やイメージは共通している部分が多いと感じたが、日本ではなかったシーンが最初に組み込まれていたり、同じシーンでも場所の設定が違っていたり、座席を抜くシーンが多く入っていたりなど、演出の部分で細かな違いがあった

感じたこと⇒同じ作品でも、国によって観客がよりわかりやすいセリフや演出にアレンジすることによって、楽しめるようになっていないか考えた

⇒近くに座っていた観客は2度目の鑑賞だったらしく、大好きな作品だからまた観に来たそうで、その席の価格が安い上に舞台もよく見えて良いとのことだった

⇒パンフレットを販売していた女性に原作のアガサ・クリステイについて聞いてみると、彼女はイギリスで最も人気な小説家の1人で、有名なミステリー作家だと教えてくれた



まとめ

・イギリス(ヨーロッパ)の演劇文化および芸術文化とは

⇒様々な表現方法に対して寛容であり、人々と心の距離も近く、時に公的には言及できない内容も隠された意味として伝える手段に芸術が用いられている

・日本との違い

⇒劇場の装飾や設備がどこも本格的であり、観客もパフォーマンスに対する熱が高く、「舞台を観に行く」ことの敷居は低い

・幅広い「芸術作品」について知識を深め、自分なりの考えを持つ

⇒演劇そのものからそれに関する資料、絵画など様々な作品を鑑賞し、現地に行く前よりかなり知識を深めることができた

⇒芸術とは、その表現の仕方によっては、癒しであり、訴えかけるものでもあり、感動を与えるものでもあると考えた。また見る人のその時の精神状態や置かれている環境などによって、感じ方が変わるものでもあると考えた



・唯一日本での観劇経験がある作品だったことにより、日本版との演出の違いなどについて比較しやすかった。やはり登場人物のイメージはあまり変わらなかったが、日本ではオフィスのシーンから始まっていたのに対して、日本にはなかった主人公が死刑を執行されそうになるシーンから始まるなど、冒頭から演出が違っていたことが印象に残っている。

・伝えたいメッセージが明確に決まっているような作品ももちろんあるだろうが、ある程度鑑賞する側に感じ方や考え方が委ねられているものが芸術なのではないかと、改めて思った。考えをそれとなく作品に織りまぜることは十分に可能だが、自分の意見として何かはっきり言葉にしているわけではないため、特に政治的な部分において、都合が悪い時は言い逃れることもできる。ただそういったものは時として、直接言葉にするよりも強いメッセージとして人々に届けられることもある。そのような点でも特殊なジャンルだといえるのではないかと考えた。受け手としても、同じセリフが、同じ絵が、年齢や状況によって、または人によって感じ方が変わってくることも大いにあると思われるが、そこに間違いはなく、それら全てを含めその作品のメッセージなのだと思う。

11. 山田 希実

研究テーマ

イギリス多文化主義とヨーロッパ啓蒙主義の関係性

研究動機

- ・西洋史ゼミ
- ・18世紀以降のヨーロッパ啓蒙主義を研究

啓蒙主義

18世紀ヨーロッパ
批判の精神と理性を重視
蒙昧なものに光をあてるという思想

非ヨーロッパ世界を他者とし支配してきたイギリス
多文化主義国となった現在はその思想の影響を受けているのか？

調査方法

- ・大英博物館 Enlightenment Gallery を鑑賞
- ・学芸員に質問
啓蒙主義のことを、どのように鑑賞者に伝えたいか？
啓蒙思想は現在のヨーロッパの価値観に影響を与えているか？
- ・散歩などを通して、日本には無い多文化性を見つける

結果 ① 大英博物館 Enlightenment Gallery 展示

展示の概要の説明：

- The Enlightenment
- ・1680年～1820年
 - ・発見と学びの時代
 - ・大英博物館が建てられた時代 = Enlightenment era

展示方法

- ・文字、食事法、宗教など、カテゴリー別に配置
- ・壁にも展示
- ・拾ったものをそのまま置いている印象
- ・植民地支配に対する批判もみられた

結果 ② 学芸員への質問

- ・質問できたのは2人のみ
 - ・うまく聞き取れなかった
 - ・「展示することで文化を守った」
 - ・「奴隷などに関する新しい展示への取り組みをしている」
- というようなことが聞けた。

・私は西洋史ゼミに所属していて、18世紀ヨーロッパ啓蒙主義についての研究をしている。実際にイギリスに行って、それがどのような影響をいまだに与えているのか調べたいと思った。

・調査方法は3つ。大英博物館の啓蒙主義ギャラリーを鑑賞し、どのような展示をしているのか考える。そこにいる学芸員に話を聞いて、啓蒙主義と現在のことを質問する。3週間の生活を通して、気づいたことがあったらメモをする。

・展示の結果。啓蒙主義の時代はヨーロッパが発展した時代であると定義づけられていた。壁までぎっしりと展示がしてあり、説明によると、18世紀当時の展示方法を再現しているとのこと。植民地支配に対する反省的な文章があった。

・学芸員への質問は正直うまくいかなかった。あまり聞き取れなかったが、以下のことのみ分かった。学芸員は、大英博物館で「展示することで文化を守った」、「奴隷などに関する新しい展示への取り組みをしている」と述べていた。

結果 ③生活の中で発見したこと

バス

- 様々な言語を話している
- 降りるときに「ありがとう」を全員が言う
- ⇒出身や言語が違っても、公共の場での共通文化がある

お店

- 学校の食堂やカフェの店員になまりがある人が多い
- ⇒他国から来て働いている人が多い

考察

- ・啓蒙主義と多文化主義の関係性は明確には分らなかった
- ・大英博物館の展示において、啓蒙主義がイギリスの発展につながったことを認めつつ、植民地支配への反省もしていることが分かった
- ・出身国が違っても、イギリスで暮らすうえでの共通認識や共通の文化があることが分かった

感想、反省

- ・博物館での質問が、答えを聞き取るには難しかった
- ・博物館以外での質問も考えておけばよかった
- ・展示方法が意外だった。ただ物を置いているような印象だった
- ・今後の展示方法の変化にも注目したい

- ・生活の中で発見したことについてである。毎日利用したバスで分かったのは、乗客は英語だけでなく様々な言語を話す人がいることだ。降りるときは必ず運転手に“Thank you!”と言っていた。出身や言語が違ってても、共通の文化を持っていることが分かった。さまざまな店に行ったが、学校の食堂やカフェの店員になまりがある人が多かった。他国にルーツがある人が多いことが分かる。
- ・啓蒙主義と多文化主義の関係性は正確にはよくわからなかった。ただ、大英博物館の展示において、啓蒙主義がイギリスの発展につながったことを認めつつ、植民地支配への反省もしていることや、出身国が違ってても、イギリスで暮らすうえでの共通認識や共通の文化があることが分かった。
- ・博物館での質問が、答えを聞き取るには難しかった。文章で質問するのではなく、より簡単に聞き取れるような質問を用意しておくべきだった。また、博物館以外での質問も考えておけばよかった。調査を行って驚いたことは展示方法である。ただ物を置いているような印象で、残念だった。だが、今後の展示方法に変化があるとのことだったので、より過去ヨーロッパ諸国が行った植民地支配や帝国主義政策への反省が現れた展示を期待したい。

4. Diaries

8/5 (土)

- ・ YCAT から同じバスで第二ターミナルへ向かった日本人のご家族が、まさかの香港行きもヒースロー行きの飛行機も一緒にびっくりした。
- ・ 成田空港で円をポンドに両替したら、とても損をした。円安を感じた。
- ・ 初機内食はあんまり美味しくなかった。デザートハーゲンダッツはとても美味しかった。

8/6 (日)

- ・ 1人飛行機の中で顎が外れて、ヒースロー空港に着いた後すぐに病院に直行した。顎を治してもらってから、自力で夜にヨークへ着いた。
- ・ キャンパスツアーで数年ぶりにデカめの鳥を近くで見た、自然豊かで素敵だった。
- ・ ヨークに行く特急でサンドイッチを買ったが、美味しくなかった。日本のコンビニのサンドイッチの方がよっぽどおいしかった。ベジタリアン用のサンドイッチが豊富で、日本よりも需要があるのだと思った。
- ・ ヨーク駅は石でできていて、歴史を感じるおしゃれな造りだった。

8/7 (月)

- ・ ヨークの授業初日。先生いい人そう。大学広かった。
- ・ 腰痛を発症して苦しんだ。火曜日の疲れとは思えないほど疲れていたのでも早く寝たい。
- ・ 大学のとてつもなく大きい庭が、人工的に草が刈りこまれていて、ザ・イギリス！という感じで感動した。

8/8 (火)

- ・ 武智が唐揚げを作ってくれて嬉しかった。
- ・ 授業の休憩時間に庭で、みんなでお菓子を食べながら日向ぼっこをした。先生や生徒が楽しく談笑していて、横市もこんな風だったらいいのにな、と思う。
- ・ 放課後街に遊びに行った。20時になっても明るくて高緯度を感じた。

8/9 (水)

- ・ 初めて寮の洗濯機を使ったが携帯でアプリを使わないといけなくて、使い方が難しかった。華子が洗濯機と乾燥機を間違えて、40分間洗濯物を無駄に乾燥させていたのが切なかつた。
- ・ 大学で、男子トイレか女子トイレかを示すマークに色がついていなくて、どっちも真っ黒でジェンダーへの配慮を感じた。

8/10 (木)

- ・ ヨークミンスターのホールにコンセントがあった。日本では寺に危害を加えると叩かれるので文化の違いを感じた。

- ・ヨークミンスターで像や展示物を好きに見ていたら、先生たちとはぐれて華子と2人になってしまった。建物の中は広すぎるし、電波も届かず、探すのを諦めた。
- ・加藤先生がオーストラリアのTシャツを着ていたおもしろかった。

8/11 (金)

- ・大学の先生のメグが教えてくれたアートマーケットに行った。店主はお菓子を食べていたり店にいなかったりと自由で良かった。
- ・街頭インタビューをした。ヨークの人はみんな頭良くて優しい。聞いたことにいろいろ答えようとしてくれる姿勢が嬉しかった。緊張したけど大丈夫だった。
- ・サーティワンアイスクリームを食べた。美味しかった。
- ・今日の夜のミーティングはオンラインだったのでレストランから参加した。そのレストランは小さなハンバーガー1つで2000円、ぼったくりだと思った。

8/12 (土)

- ・古着屋さんでデニムジャケットを買った。イギリスじゃなくても買える。
- ・手に入れた10ポンド札にジェイン・オースティンが描かれていて嬉しかった。オースティンのイギリス人にとっての存在の大きさを感じた。
- ・ヨークの美術館に行った。綺麗で、展示物はたくさんあるのに無料で入れるのが嬉しい。
- ・川沿いの綺麗なパブで飲んだ。気持ちいい天気で、イギリス人たちは陽気に酔っばらっていた。

8/13 (日)

- ・寮でみんなとジブリ映画を見た。イギリスではネットフリックスでジブリ作品が見られるので今のうちにいっぱい見ておこうと思う。
- ・お昼は韓国の辛ラーメンを食べた。これはどこのお店にも売っていて、ラーメンはイギリスでも人気なのだと実感した。
- ・イギリスらしい短い雨と季節の晴れ間に遭遇した。これまでずっと晴れが続いていたのでやっとイギリスに来た感じがした。
- ・華子と綺麗な夕焼けを走って見に行った。

8/14 (月)

- ・ヨークで有名なピザ屋に来た。お客さんはひっきりなしに来ていて、味はとても良かった。イギリスに来て一番美味しい料理だった。
- ・シャワーは水はけが悪く使いづらい。日本人にとってお風呂はリラクソスの時間だけど、寮のお風呂は必要最低限の設備しかなくて文化の違いを感じた。
- ・日替わりで誰かが体調を崩している。ヨークの呪いだろうか。

8/15 (火)

- ・ウィットビーへのプチ旅行の日だった。どの店もフィッシュアンドチップスを出していて、実際にどこが有名な店なのか分からなかった。

- ・フィッシュアンドチップスは美味しかったけどレギュラーサイズは大きすぎて食べきれなかった。魚にもポテトにも味がついているわけではないので、卓上の塩と酢をかけて食べたが、最初は美味しかったがだんだん飽きてきた。
- ・ウィットビーは素晴らしい綺麗な海の街だった。観光地として栄えていて、そこで食べたアイスクリームが値段の割にとっても大きくて美味しかった。イギリスのアイスクリーム屋には必ずラムレーズン味があり、定番らしい。

8/16 (水)

- ・お米を買った。炊くのに失敗した。
- ・スーパーに行ったら桃にカビが生えていて驚いた。結構色々な商品が腐っていた。
- ・オムライスを作って食べた。美味しかった。

8/17 (木)

- ・明日のプレゼン作りを頑張った。
- ・寮から遠いスーパーにバスと徒歩で行った。伝統的なスイーツのトライフルを食べた。とても美味しかった。

8/18 (金)

- ・授業最終日でプレゼンだった。緊張はあまりしなかったけど英語で上手く伝えられるかが不安だった。まあまあ上手くいったと思うが、メグのメールアドレスがパワーポイントに間違っていてコピペされているなどハプニングが多く、焦った。
- ・授業終わりに賞状をメグから 1 人ずつ貰った。その後みんなでサンドイッチやケーキを食べながら談笑した。メグが先生で学ぶことは多く、本当に良かった。
- ・夜はバブに行った。ヨーク最後の夜を楽しんだ。
- ・帰ってきてパッキングを頑張った。もっと計画的に進めていればと後悔した。

8/19 (土)

- ・ヨークを出発するために朝から寮の清掃にみんなで走り回った。ごみ捨てや各部屋のチェックなどを協力して行った。大変だった。
- ・大英博物館でミイラを見た。アジア系の人たちは映える写真を撮ろうと必死になっていた。
- ・ロンドンについて寮の近くのレストラン街で日本食を食べた。店員はみんな優しく、味も美味しかった。値段は優しくなかった。
- ・ロンドンでは華子と 2 人部屋だった。

8/20 (日)

- ・五十嵐先生が合流した。初めてお会いしたがパワフルそうな先生だなと思った。
- ・ハロッズのグッズがすごくかわいいのでいっぱい買ったかったが、値段は全くかわいくなかった。アフタヌーンティーでお腹いっぱいになって動けなかった。
- ・ハロッズはイギリス人が多いと思っていたが、実際行ってみたらアジア系の観光客ばかり

で驚いた。

- ・「レミゼラブル」を見た。劇もすごいけど観客の熱がすごかった。スタンディングオベーション。
- ・大英博物館の近くの公園でインタビューをした。みんな優しくて一生懸命に答えてくれた。英語力が足りなくて雑談が上手くできないのが悔しい。
- ・スーパーに売っている特大サイズのキャラメルアイスが値引きされていたので買って、夜中に食べた。絶対に太る。

8/21 (月)

- ・ナショナルギャラリーに行ったら、世界史の教科書で見たことのある絵がたくさんあって感動した。これほどの絵と豪華な建物を税金で維持しているのはすごいと思った。
- ・華子の携帯の充電がなくなって、仕方なくアップルストアでモバイルバッテリーを買っていた。日本よりも割高なので悔しがっていた。日本はコンビニでレンタルできるから便利だなと思う。
- ・小さい頃からの夢だったハリーポッタースタジオに行けて幸せな日だった。一生推していきます。
- ・「お気に召すまま」を見た。グローブ座の劇はマイクがないけど、俳優さんたちの声が大きくてすごいと思った。

8/22 (火)

- ・V&A、展示物が多すぎる。
- ・V&A 博物館内のモリスがデザインしたカフェでケーキを食べていたらどっしゅんってすごい音がした。店員さんが店のカウンターに並んでいた大量の食器が何かを落としたらしい。どうにもならないレベルだったからもはや店員さんは冷静だった。
- ・寮の最寄り駅までの帰り方が分からず迷って駅員さんに聞いたら優しく対応してくれた。
- ・事情があって私と実優の部屋を加藤先生が見に来る事態が発生した。抜き打ちチェックかと思ひ混乱しながら、先生を部屋まで案内した。その日は出かける直前に乾燥機から出した洗濯物をベッドの上に放り出していたので、ただでさえ汚い部屋がさらに散らかっていた。先生が部屋を見ている間とても気まずかった。その日の夜は疲れがたまっていたのか微熱が出た。

8/23 (水)

- ・ロンドンからオックスフォードまでバスで移動した。みんなより先に実優と加藤先生と一緒に向かった。
- ・オックスフォードの寮に到着した後すぐにみんなで古着などが売っているマーケットに行った。アンティークが可愛かった。
- ・オックスフォードの寮の部屋が超広くてテンション上がった。照明も素敵でプリンセスになった気持ち。

- ・クライストチャーチの部屋は広くて半個室のような感じで最高だった。窓からは教会が見えて鐘の音が聞こえる。ただお風呂とトイレが地下にあるのが悲しい。部屋は3階だからいちいち降りるのが面倒。地下は石でできた昔の作りのままで洞窟みたいだけど綺麗。シャワーの水圧は痛いほど強い。シャワーヘッドが上にぼーんと上がってしまうほど強い。
- ・武智の故郷巡りをしに行った。公園で最近日本から引っ越してきた中学生とフランスからの留学生と一緒にバスケットをした。楽しい話がたくさんできて良かった。
- ・実優と奈那美と一緒にフリーマーケットに行った。時間が遅くて店はほとんど閉まっていたが、アイスクリームを買って食べた。イギリス滞在中にアイスクリームをたくさん食べている。日本よりもアイスクリーム屋が多い気がする。

8/24 (木)

- ・優真と実優とひいろと一緒にコッツウォルズへ行った。タクシーを利用した。コッツウォルズは自然が豊かで綺麗でとても癒された。少し歩くと、羊がたくさんいる場所に着いた。実優の羊の鳴きまねが上手で本物と見分けがつかなかった。1匹とても野太い声で鳴いている羊がいた。個性的で良かった。帰りもタクシーで帰った。近くに利用できるタクシーがなかったため、行きタクシーの運転手に電話をかけて来てもらった。電話越しに英語で意思疎通出来てとても感動した。一優真に珍しく感謝された。
- ・コッツウォルズに行った。小さな街だけど観光客は多く日本人もいた。アジア系の人が多かった。ただ住宅街がすぐ近くにあるので、住民にとっては迷惑になるだろうと思う。
- ・オックスフォード博物館でスタッフのおじさんにウィリアム・モリスのことを聞いたら自動車会社を作った別のモリスを紹介された。
- ・イギリス最古のティーハウスとコーヒーハウスに行った。店内で大きなハエが飛んでいて、パンにとまっているのを見てドン引きした。
- ・オックスフォード最古のパブに行った。加藤先生がお酒を奢ってくれた。机で伏せて寝てしまって出禁になった。
- ・ナルニア国物語に出てくるトルコの伝統的なお菓子ターキッシュデライトを食べた。トルコ人がやっているカフェで食べた。想像通りの味でまあ美味しかった。

8/25 (金)

- ・早朝、朝食時にダンブルドアの席を確保するために、奈那美と一緒にクライストチャーチの食堂に並んだ。早すぎて、私たち以外にほとんど人はいなかった。無事に席をとれてよかった。
- ・朝いつも誰かが席を取ってくれるのでみんな食堂の前の特別席に座れるのが嬉しい。今日こそは一緒に並ぶぞと思っていたが起きられなかった。朝急ぎすぎて顔にコンタクトがついていて、友達に指摘された。恥ずかしい。
- ・全員でブレナムパレスへ行った。加藤先生が作った10問のクイズをグループに分かれて

考えた。私のグループはなかなか答えが見つからず難航した。チャーチルの模型と一緒に写真を撮った。

- ・ブレナムパレスへ行った。家と草原が広くて羨ましくて住みたくなった。
- ・ブレナムパレスのレストランもやっぱりハエや蜂だらけだった。この時期はちょうどよい気温で虫も過ごしやすいのだろう。
- ・迷路の真ん中には何と書いてあるかというクイズで、2ドル払って列車に乗って、迷路を歩いて、“BLENHEIM”と書かれているのを見つけたときに、膝から崩れ落ちそうになった。せつくなのだからもっと捻ったことが書いてあって欲しかった。
- ・夜はバブに行った。バブでは自分で注文が出来た。店員さんがとても優しかった。イギリス滞在中にビールが飲めるようになった。寮に戻って部屋で友達と少しお酒を飲んだ。

8/26 (土)

- ・最後にオックスフォードのショッピングモールでラーメンを食べた。カタコトの日本語で「いらっしゃいませ！」と言いながら太鼓をどンドン鳴らして迎えてくれた。ちょっと恥ずかしかったが日本が受け入れられている感じがして嬉しかった。
- ・時間があったからまたアシュモレアン博物館に行って最後のインタビューをした。モリスに詳しい人に話を聞いて良かった。
- ・最終日は実優と一緒にみんなより先にバスでヒースロー空港へ向かった。クライストチャーチを出るときとても名残り惜しかった。香港行きの便が1時間ほど遅延しており、空港で店を見たりして時間をつぶした。
- ・イギリスから香港行きの便でスマホとAirpodsの左耳を紛失した。スマホは後ろの席の方が拾ってくれていた。Airpodsは香港に着いた後、CAさんが一緒に探してくれたけど見つからなかった。
- ・帰りの飛行機は予想通り遅延して、成田に着いたのは23時すぎだった。みんな疲れ果てていた。

8/27 (日)

- ・帰りの飛行機は行きよりも短く感じた。日本に着いたあとは、終電がなかったため成田空港の近くのホテルに泊まった。約1か月ぶりに日本のコンビニのご飯を食べた。安くて美味しくて感激した。
- ・飛行機の遅延で当日中に帰れずホテルに泊まった。ファミマで爆買いをして、日本をかみしめた。日本食万歳！

一番思い出に残った日

1. 猪瀬 文彌

3週間の実習で一番心に残った日はロンドンの1日目です。ヨークでゆったりと過ごした2週間の後だったので、余計刺激的に見えたのかもしれません。超高層ビルの目の前を流れる巨大なテムズ川の景観や近代的な建築物の間にたたずむ歴史的な施設というギャップも非常に面白かったです。人口では東京のほうが上ですが人の密度がかなり高いと感じました。加えて物の値段にも驚かされました。なんだか日本がすごく弱く感じました。ロンドンでは東京よりも座って話せる場所が多いと感じました。カフェはだいたいテラス席があり、ショッピングセンターなどでも座れる場所が多かったです。人種の多様性にも驚かされました。東京も少しずつ外国人観光客が増えてきていますがそれとは比にならないほど混ざり合っているように感じました。夜には少し寮の周りを散歩してみたら植え込みに巨大なカタツムリがいて怖かったです。以上です。

2. 大河原 優希

イギリスで一番思い出に残っているのは、ロンドンを訪れて2日目の日のことです。その日はクィア・ブリテンという国立LGBT博物館と大英博物館を中心にロンドンを回りました。クィア・ブリテンでは、LGBTの歴史を学びながら、自身の研究に関わるお話をスタッフの方に聞かせていただきました。日本とイギリスにおける性的マイノリティをとりまく環境の違いを知ることができ、有意義な時間を過ごしました。大英博物館では、様々な美術品を楽しむと同時に、イギリスが辿ってきた略奪の歴史を肌で感じました。イギリスという国の振る舞いが世界に及ぼした影響は良くも悪くも絶大であり、今なお多くの国々に深く根付いているのだと改めて思いました。また、キングス・クロス駅のフォートナム・アンド・メイソンを訪れたとき、日本人の女性店員が働いているのを見かけました。「英語が苦手な日本人」「国際社会は男性主体」というステレオタイプが刻まれている自分にとって、彼女の姿は眩しいものでした。これも含め、日本での価値観や考え方に囚われて見えないものが、イギリスに来てたくさん見つかったように感じます。イギリスで得たものを大事にしたいと思います。

3. 一 優真

8月25日が一番思い出に残っています。この日は朝食を早めに食べ終えたので1人で部屋に戻っていると、構内に内設された教会が公開されているのが見えたので、勝手に入ってみることにしました。朝だったので誰もいない教会には物音ひとつ響かずより荘厳な空気が立ち込めているように感じられ、正面奥のスタンドグラスを朝日が照らし、差し込む

色鮮やかな光の異質さを際立たせているようでした。ただ1人この教会の美しさを何とか写真に収めようと奮闘していると、グリッド線に照らし合わせたときに奇妙なほど左右が対称であることに改めて気づかされました。建設は12世紀に遡るというクライストチャーチ大聖堂ですが、優れた建築士がいたにせよ、優れた道具を持っていたにせよ、ここまでのシンメトリーを空想し、図に起こしたものを正確に組み立て上げた当時の大工たちの凄さたるや、現代のそれらとは比べることも恐れ多いほどやりがいとプライドをもって働いていたのだと思います。数々の建築物を実習中に見学してきたなかで、個人的にこのクライストチャーチ大聖堂が、私の建築への関心と感動を醸成したという点で、強く印象に残りました。

4. 久野 華子

一番思い出に残っているのは実優と奈那美と一緒に出掛けたロンドンの最終日です。まずハロッズに行きました。様々な種類のティシューが沢山売られて、とても迷いましたが、ふわふわの白色の可愛いくまにしました。その後は近くの公園でインタビューをしました。公園にいた人は皆とても親切にインタビューに答えてくれて嬉しかったです。日本にもこのように自然豊かな大きな公園がもっと増えるといいと思いました。その後はアフタヌーンティーへ行きました。奈那美が予約してくれた1人約40ポンドの高級店でした。店員さんが積極的に話しかけてくれたのですが、訛りが強く聞き取るのが大変でした。ホテル内はとてもきれいな装飾でとても素敵な空間でした。人生で初めてのアフタヌーンティーを本場のイギリスで経験出来て、良い思い出になりました。帰った後、夕方のミーティングが始まる前、加藤先生に突然「実優と華子の部屋見せて」と言われました。部屋の抜き打ちチェックかと思い混乱しながら、先生を部屋まで案内して鍵を開けました。その日は出かける直前に乾燥機から出した洗濯物をベッドの上に放り出していたため、ただでさえ汚い部屋がさらに散らかっていました。加藤先生が部屋を見ている間とても気まずかったです。とても情報量の多い一日でした。

5. 佐々木 ひいろ

8月22日が一番思い出に残っています。この日は、ロンドン中を適当にぶらぶらしました。ウェストミンスター駅付近で屋台がたくさん出ているので、ご飯を食べました。ここでは、それぞれの屋台が世界各国の料理を出していました。ギリシャ料理、ナイジェリア料理など日本人からするとマイナーな料理が揃っていて、どれを選ぶかすごく悩みました。私はナイジェリア料理を食べて、お肉が柔らかくて美味しかったです。付け合わせのバナナの炒め物は初めて食べましたが、日本に帰っても作ってみたいと思うほど美味しかったです。そのあと、西ロンドンの日本人街に行って、公園で日本人の中学生と遊びました。二週間前にイギリスについたばかりとのことで、まだ英語も全然喋れないらしく、不

安でいっぱいと言っていましたが、とても明るい子で早速同じ日本人学校の子と仲良くなっていたので安心しました。これからも頑張ってもらいたいと思いました。

6. 千明 瑚海

ヨーク大学で授業を受けた最後の日、サマーコースの最終課題としてプレゼンを行いました。ヨークの街で20人にインタビューをした結果をまとめて発表をするというもので、私のチームはイギリスの劇場文化について研究しました。インタビューやデータの分析ももちろん難しかったのですが、なにより自分にとってハードルだったのは、聴衆に内容がちゃんと伝わる話し方を心掛けることでした。それまでの2週間、メガに何度も声が小さいと注意されていたため、最終プレゼンで同じことを指摘されるわけにはいかなかったのです。緊張すると声が極端に小さくなるという自分の弱点を克服するために最大限の時間を練習に費やしました。その結果、自分が発表している間のことをほとんど覚えていないほどに緊張したものの、メガからいいフィードバックをもらうことが出来ました。この経験は、残りの期間で有意義なインタビュー調査を行うための自信となりました。また、イギリスから帰国した今でも、英語を積極的に話せるようになったことや、人前で話すことに以前より躊躇うことがなくなったという点で自分の成長に繋がっていると実感しています。

7. 中村実優

ロンドン2日目は華子と2人で大英博物館に行きました。ロゼッタ・ストーンやミイラなど有名な展示を見ることが出来て感動でした。一番印象に残っている展示は、人が一生に使う薬がすべて一粒ずつ横に並べられているという展示です。男性と女性1人ずつ展示されていて、男性は展示の範囲内に収まっていましたが、女性の方は収まらず入らない部分は最後にぐるぐる巻きにされていました。人は生まれてから死ぬまでこんなにも大量の薬を使うのか、と驚きました。また、女性は男性よりもより多くの薬が必要になるという事実が分かりやすく展示されていて、とてもおもしろいと思いました。大英博物館は歴史的な展示ばかりと思っていたので、このような現代にも通ずる展示があると知って驚きました。博物館を出た後は近くの公園でインタビューをしました。声をかけた人たちはみんな笑顔で答えてくれてとても嬉しかったです。公園では友人同士でただ話している人や、カップルでいちゃついている人がいました。その後はオックスフォードストリートに行きました。日本の原宿にすこし雰囲気似ていると感じました。でもショッピングできるお店が並んでいるのに、街の景観は古い建物や伝統を感じさせるつくりが入り混じっていて、日本とはやはり違うなと思いました。途中で充電ケーブルを買いたいと思いましたが、なかなか売っているお店がなくて、探すのに苦労しました。日本だったら都会では探さなくてもコンビニが見つかるし、充電ケーブルでも何でも売っているので、日本は便利

な街だと改めて気づかされました。夜はスーパーで買ったアイスを食べながら、ヨーク大学の最後の課題をやって提出しました。とても疲れたけど有意義な1日になりました。次の日も朝が早いので、早く寝ました。

8. 宮川奈那美

ロンドン2日目が一番思い出に残っています。ナショナルギャラリー→ビッグベン→ハリポッタースタジオツアーという非常にイギリスを感じられた有意義な1日でした。ナショナルギャラリーでは、日本にいた頃からずっと大好きだったモネの作品を見ることができ感無量でした。自分のエコバッグのデザインと同じ作品も見つけ、重度の絵画オタクみたいな人になっていたと思います。作品数が多く、最後の方は早歩きにならないと全部見ることができないので、後5回くらいは行きたいと思いました。ビッグベンは、テレビで見ていた建造物が自分の目の前にあることになんだか不思議な気持ちになりました。荘厳な雰囲気を醸し出しており、イギリス人の心の拠り所となっているのではないかと感じます。物乞い系の人や花を押し売りしてくる人が多く、イギリスの光と影を見た気がします。ハリポッタースタジオは本当に行きたかった場所なので、入り口で普通に涙が出ました。これはこの作品だね、と言いながら作品の世界観に没入することができ、えも言われぬ気持ちでありました。世界各国から観光客が来ており、日本人の高校生が修学旅行で来ており財力の差を感じました。イギリスを大満喫するとともに、非常に学び多き1日となりました。

9. 藤巻 結衣

私がイギリスで1番思い出に残った日は、ロンドン滞在1日目の8月19日です。前日にパッキングが終わらず、寝不足気味でその日の朝を迎えました。半ば愛着すら湧いていたヨークの自室に別れを告げ、ロンドンへ出発。なぜか座席が確保されていなかった新幹線で、重い荷物と共に立ったまま揺られること約2時間。その後文字通り「足が棒のよう」になったことは忘れもしません。ただそんなことなど問題にはならないほど、ロンドンが魅力に溢れた地であったこともまた、絶対に忘れはしないと思います。まず向かったナショナルギャラリーでは、大好きなモネの『睡蓮の池』を見ることができ感無量でした。そしてこの日の目玉、『レ・ミゼラブル』の鑑賞へ。いわゆる天井席にも関わらず、下方のステージから突き上げるように響き渡る歌声に圧倒されました。終演の頃には外はすっかり暗くなっており、お世辞にも治安が良いとは言えない周辺の通りを女子学生3人、心細い気持ちで足早に歩きました。ようやく帰った時にはかなり夜が更けており、シャワーを浴びる元気はなく、乱れたアイメイクがそれを証明していました。そうして倒れ込むように眠りについたこの日は、私にとって特に刺激的だった1日でした。

10. 山田 希美

一番思い出に残っているのは8月22日です。ロンドンの大英博物館に行き、自分の研究のためにアンケートを取りました。大英博物館は想像以上に広くて、何度か迷子になりました。3人で行きましたが、博物館では個人行動になり、私は1人で見て回りました。私の研究は啓蒙主義に関係することだったので、啓蒙主義ギャラリーを見に行きました。「啓蒙主義ギャラリー」というだけあって、18世紀からのヨーロッパがどのように非ヨーロッパ世界を「啓蒙」していったのか記述があると想像して楽しみにしていました。しかし実際は私が想像した展示とかなり異なっていて、ただ外国から拾ってきたものや奪ってきたものを展示しているだけでした。かなり残念でした。一通り見て学芸員さんにインタビューをしました。全く答えが聞き取れなくて、結局何も分かりませんでした。結構落ち込んで心が折れました。時差ボケか頭痛薬の飲み過ぎか分かりませんが、色々なところがずっと不調で、さらに英語も分からないから本当にしんどかったです。博物館のミイラがおじいちゃんみたいだと家族に写真を送ったら、おじいちゃんがコロナにかかったと知りとても怖くなりました。その後は中華街に行っておくさん食べました。

11. 武智 雄大

一番思い出に残っているのは、イギリス滞在最終日にブレナムパレスに行った日です。その日は朝からブレナムパレスへ行って、先生が考えた10問のクイズを夕方までやりましたが結局全部は分かりませんでした。早く解いて早くホテルに戻ろうと思っていましたが、以外にも難しく時間がかかりました。クイズのおかげでブレナムパレスを何度も往復して、展示を隅々まで見たので、ブレナムパレスについては詳しくなりました。ブレナムパレスにはお土産ショップやカフェが併設されていて、人気の観光地として機能しているのだと思いました。お土産コーナーにはブレナムと書かれたジンがたくさん置いてあって、ジンが有名なのだろうかと思いました。ブレナムパレスを歩くと、想像以上に広くて周るのが大変でした。特に庭が広くて、こんな土地を所有するってどんな気持ちだろうと思いました。これだけ広いと管理するのもとても大変だろうと思いました。

5. Photos

Week 1 & 2 (York, Whitby)



Week 3 (London)



Week 3 (Oxford, Cotswolds, Blenheim Palace)



Food



2023 年度 「海外文化実習」報告書

2024 年 3 月 25 日発行

監 修 加藤 千博

編 者 大河原 優希・一 優真・久野 華子・佐々木 ひいろ・千明 瑚海・中村 実優・
宮川 奈那美（横浜市立大学 国際教養学部 イギリス文学・文化論ゼミ 3 年）

発行者 〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2 加藤ゼミ

電話 045-787-2256

※本報告書の印刷費用は学生教育費より助成をいただきました。